

早稲田文化

早稲田大学 文化推進部年報

Annual Report of Cultural Affairs Division, Waseda University

2020

- ◆ 坪内博士記念演劇博物館
- ◆ 會津八一記念博物館
- ◆ 大学史資料センター
- ◆ 国際文学館
- ◆ 文化企画課



Contents

開催名称などによる目次	02
ご挨拶	
文化推進担当理事	05
文化推進部長	06
坪内博士記念演劇博物館館長	07
會津八一記念博物館館長	08
大学史資料センター前所長	09
国際文学館館長	10
文化事業（2020年度）	
総括	11
研究活動・教育活動	12
展覧会・催し物	14
出品・展示協力	30
地域交流事業	31
顕彰事業	34
学術研究書出版制度	35
刊行物	37
オリジナルグッズ	39
文化広報	41
文化資源データベース	45
文化施設	46
各種会議	48
人 事	51
統 計	52
文化施設マップ・連絡先一覧	裏表紙

※本年報では、紙面の都合上、坪内博士記念演劇博物館を演劇博物館、會津八一記念博物館を會津博物館と省略表記している部分があります。

開催名称などによる目次

1. 総 括	11
2. 研究活動・教育活動	12
3. 展覧会・催し物（●展覧会 ●催し物）	14
坪内博士記念演劇博物館 （開催順）	14
○演劇博物館 2020年度秋季企画展 Inside/Out ——映像文化とLGBTQ+	
●演劇博物館 2020年度秋季企画展 「Inside/Out ——映像文化とLGBTQ+」記念プログラム『風たちの午後』デジタルリマスター版 上映会	
●演劇博物館 2020年度秋季企画展 「Inside/Out ——映像文化とLGBTQ+」記念プログラム 誰のためにつくるのか～『虹色の朝が来るまで』上映会	
○演劇博物館 特別展 「競演！『三国志』の風雲児たち—— 日本・中国・台湾の華麗なる舞台」	
○演劇博物館 特別展 「競演！『三国志』の風雲児たち—— 日本・中国・台湾の華麗なる舞台」第Ⅱ期 ギャラリートーク	
●エンパクシネマ2020	
○演劇博物館 オンライン展示「失われた公演——コロナ禍と演劇の記録／記憶」	
●オンライン展示「失われた公演——コロナ禍と演劇の記録／記憶」関連オンライン企画 【鼎談】コロナ禍のなかの歌舞伎——失われた舞台と新表現の地平	
●演劇博物館 2020年度シェイクスピア祭演劇講座 もしも私が女なら～シェイクスピア劇におけるジェンダーとセクシュアリティ	
●出張体験教室〈狂言〉	
●出張体験教室〈常盤津〉	
●第83回 逍遙祭 逍遙をかたる人々～逍遙祭のあゆみ	
○2021年新収蔵品展	
會津八一記念博物館 （開催順）	20
○五彩と色絵	
○廣瀬文俊旧蔵品展 ——永島慎二を中心に——	
○山水	
○松丸東魚篆刻作品等受贈記念 萬象、一刀の中にあり ——篆刻家・松丸東魚の仕事	
○人のかたち	
大学史資料センター （開催順）	23
○早稲田で学ぶ ——時代のなかの学生と学問——	
文化企画課 （開催順）	23
（早稲田大学歴史館）	
○大隈重信とチベット・モンゴル	
○早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業 「墨伝う思い ——書を通して知る文人 坪内逍遙」	
（早稲田スポーツミュージアム）	
○体育各部セレクション	
○Jリーグ開幕関連資料展示	
○堀江忠男 ベルリン五輪時使用トランク 特別展示	
○野球部 東京六大学野球優勝記念展	

開催名称などによる目次

(本庄早稲田の杜ミュージアム)

○オセアニア民族造形美術品展 ―セピック川流域の精霊と文化―

○世界をつなぐやきもの―陶磁器、遥かなる旅路。

●第11回 早稲田狂言のタベ／ Museum Week 2020 ／ 2020年度 早稲田学生文化・芸術祭／

早稲田文化芸術週間 2020

●早稲田文化ラボ

●多和田葉子・高瀬アキ パフォーマンス&ワークショップ

4. 出品・展示協力

30

5. 地域交流事業 ※順番は紙面の都合によって変更します。

31

- ・福島県白河市 …… 白河市・早稲田大学交流事業
- ・長野県軽井沢町 …… 軽井沢町・早稲田大学交流事業「第23回おもしろ科学実験教室」
- ・佐賀県佐賀市 …… 令和2年度 大隈祭
- ・岐阜県加茂郡八百津町 …… 岐阜県八百津町交流事業「ワセダ・ヒューマニティ・コンサート'20」
- ・東京都新宿区 …… 令和2年度 新宿区夏目漱石コンクール 読書感想文コンクール
令和2年度 新宿区夏目漱石コンクール 絵画コンクール
令和2年度 文化庁補助事業 新宿から発信する
「国際演劇都市TOKYO」プロジェクト実行委員会
- ・東京都中野区 …… 東京都中野区・早稲田大学文化交流事業
早稲田大学交響楽団「Maple Concert 2020」
- ・静岡県熱海市 …… 第50回逍遙忌記念祭
- ・千葉県鴨川市 …… 鴨川市・早稲田大学交流事業「第23回おもしろ科学実験教室」
- ・岐阜県美濃加茂市 …… 第13回美濃加茂市・早稲田大学文化交流事業 学生演劇公演
早稲田大学 Seiren Musical Project
第18回坪内逍遙大賞授与式
- ・埼玉県本庄市 …… Big Band Jazz Special Live “早稲田大学ハイソサエティ・オーケストラ”

6. 顕彰事業

34

- ・早稲田大学坪内逍遙大賞
- ・若山牧水青春短歌大賞（宮崎県延岡市）
- ・梓立祭作文・絵画コンクール（高知県宿毛市）
- ・旺文社主催「全国学芸サイエンスコンクール」
- ・小川未明文学賞（新潟県上越市）

7. 学術研究書出版制度

35

8. 刊行物

37

9. オリジナルグッズ

39

10. 文化広報

41

- ・Waseda Online（ワセダオンライン）
- ・メールニュース
- ・新聞・雑誌・テレビで取り上げられた主なもの

開催名称などによる目次

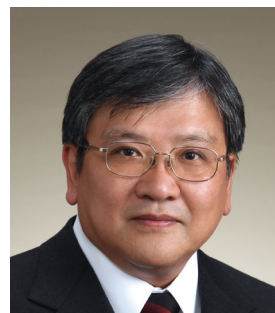
11. 早稲田大学文化資源データベース	45
12. 文化施設	46
13. 各種会議	48
14. 人 事	51
15. 統 計	52

・文化施設マップ・連絡先一覧・・・・・・・・裏表紙

ご挨拶

文化推進担当理事 渡邊 義浩

(文学学術院教授)



文化推進部年報2020年度版の刊行にあたって

早稲田大学は、建学以来、積み重ねてきた歴史と伝統を通して、日本社会とその文化に貢献してきました。その蓄積は、しばしば早稲田らしさ、あるいは「早稲田文化」と称され、在学生、教職員、卒業生を含め広く早稲田関係者の誇りを醸成してきました。

文化推進部は「早稲田文化」の発信の中心的な役割を担うとともに、学生・校友・地域へと、広く開かれた連携による「知」の共創と創出を図りながら社会に貢献することを目指し、2007年に設置されました。従来から独自に展開してきた坪内博士記念演劇博物館、會津八一記念博物館、大学史資料センターの三機関に、文化推進部直下の事務組織としての文化企画課を加え、それぞれが独自の役割を担いつつも、それらが早稲田における「文化の束」として一体となって活動しています。

早稲田大学は、国宝2件・重要文化財7件・重要美術品8件を含む美術品・書画・博物資料・図書資料・映像資料など、500万点以上を所蔵しています。これらは早稲田文化の核をなす貴重な文化資産であり、文化推進部では、これらの資源の公開と活用積極的に取り組むことにしています。その際、文化活動を展開する上で、充実した文化施設は不可欠です。

まず、2014年に「ワセダギャラリー」を27号館地下1階にリニューアルオープン、2015年に同館1階を改修してショーウィンドウスペースを設置するなど、教職員が利用できる文化活動の拠点を拡充。2018年3月に既存の坪内博士記念演劇博物館、會津八一記念博物館に加え、3つ目のミュージアム「早稲田大学歴史館」を開館し、本学の歴史（過去・現在・未来）に関する資料や情報を、単なる通史の平板な陳列ではなく、来館者がそれぞれの関心に応じて新たな発見ができるよう、多様な切り口で提示。2019年3月に戸山キャンパス「早稲田アリーナ」内に4つ目のミュージアム「早稲田スポーツミュージアム」を開設し、長い歴史を彩る栄光のシーンや象徴的なエピソード等を通じて、「早稲田スポーツ」の持つ、比類なき個性や魅力を体感できる施設としました。2020年10月には、埼玉県の本庄キャンパスに本学5つ目のミュージアム「本庄早稲田の杜ミュージアム」を開館し、本庄市と早稲田大学は、ここを地域文化の拠点の中核施設として、本庄の歴史と文化、本学の持つ民族造形美術品などを最新の研究成果とともに公開しています。

そして、2021年10月1日に、国際文学館（村上春樹ライブラリー）

を一般公開するべく、現在準備を進めており、国際的な日本文学・翻訳文学の研究拠点として、充実した研究環境と交流の場を提供して参ります。

早稲田大学では、2032年の創立150周年に向けて中長期計画「Waseda Vision 150」を策定し、理想の大学像を打ち立てるための各種プロジェクトを検討・実施しており、文化推進部でも「早稲田らしさと誇りの醸成をめざして—早稲田文化の推進」を核心戦略の一つに掲げています。その目的は、「1. 早稲田文化とは何かをあらためて確認するとともに、その充実と展開のプロセスを明らかにすること」、「2. 早稲田文化を早稲田らしさの評価につなげ、その評価を高めること」、「3. 早稲田の誇りの一層の醸成をしていくこと」にあり、各目的の実現を通して、新たな文化の創成に寄与することを目指します。

具体的には、この目的の実現のために8つのプロジェクトを立ち上げ、独創的な事業に取り組んでいます。①文化・芸術の推進とキャンパスからの文化発信プロジェクト、②地域との連携による文化発信と施設の有効活用プロジェクト、③バーチャルミュージアム—文化資源データベース公開の強化・拡充プロジェクト、④早稲田大学百五十年史編纂プロジェクト、⑤早稲田スポーツの新たな展開プロジェクト、⑥早稲田らしさと誇りの探求プロジェクト、⑦ワセダ演劇の発信力強化プロジェクト、⑧国際文学館開設プロジェクトです。

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、当初計画していたイベントなどの多くを中止または延期にせざるを得ない状況となり、プロジェクトの遂行にも影響を受けることとなりました。しかしながら、大学の教職員・学生が生成する「文化」を発信することは、大学と社会の結びつきをより強め、ひいては社会の豊かさに貢献すると確信しており、そこに文化推進部の真にして無二の役割があると考えています。東西古今の「文化の潮」が渦巻く早稲田からの力強い文化発信と、早稲田の文化が未来の世代へ受け継がれていくよう、歩みを止めることなく、これからもその取組みに邁進して参ります。

「早稲田文化」はスポーツや科学などの分野をも含み、学生・卒業生の活動・活躍も早稲田文化の重要な構成要素です。また、本学の校友だけではなく、広く社会一般の方々にも理解と共感を得て、早稲田文化を拡げて行きたいと考えています。今後とも本学の文化事業へのご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

ご挨拶

文化推進部長

首藤 佐智子

(法文学術院教授)



文化推進部の動き（2020年度）

本学文化推進部は、早稲田文化の魅力ある発信を目指して、従来から多種多様な文化事業を実施して参りました。文化推進部として推進する事業は、大きく分けて「大学施設を利用した文化事業」と、「地域交流事業として主として学外において実施する文化事業」の2つとなります。

2020年度も、各ミュージアムをはじめ、文化推進部として多くの事業を計画していましたが、2020年初頭から日本国内でも感染拡大した新型コロナウイルスの影響は深刻であり、同年3月から学内の各ミュージアムは全館休館にするとともに、対面や地域の市民交流を前提としたイベントの多くも中止または延期の措置を取る状況となりました。

特に、多くの人が集まる事業の再開は、緊急事態宣言が解除された後も慎重な対応を余儀なくされ、学内各ミュージアムについては、感染拡大予防ガイドラインを踏まえた対策を講じた上で9月下旬から順次再開し、その後の緊急事態宣言下でも開館を続けています。

そのような中で、2020年10月15日、本庄キャンパス「早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター（早稲田大学93号館）」1階に、本庄市と本学が連携して運営を行う「本庄早稲田の杜ミュージアム」を開館することができたのは明るいニュースとなりました。開館セレモニーには、大野元裕埼玉県知事、吉田信解本庄市長、田中愛治本学総長をはじめ多くの方に出席いただき、地方公共団体と私立大学が共同で運営する新たな試みのミュージアムは、各種メディアでも取り上げられました。このミュージアムはその後も順調に入館者数を伸ばし、2021年4月11日に、来館者1万人越えを達成しています。1万人を飾ったのは、来館4回目の小学4年生のお嬢さんとそのお母様ということで、このようなミュージアムへの来館が、未来の研究者を生む機会となれば、大学としても喜びに堪えないところです。

イベント実施においては、依然として感染拡大防止を前提とした慎重な判断が求められています。大隈記念講堂や小野記念講堂などのイベント施設は、利用形態により参加定員を制限したうえで、入口に体温測定用のサーモグラフィーや消毒液の設置などの感染拡大防止対策を講じてきました。文化推進部が行ってきたイベントは、学生が持つエ

ネルギーが形づくる「早稲田文化」と、それを迎えてくださる地方公共団体の皆さまの協力がなくては成り立ちません。対面でのイベント実施が困難な状況の2020年度において、文化推進部では歩みを止めぬよう、学生団体や大学周辺の食堂や商店にも協力を仰ぎつつ、様々なオンライン発信・オンラインイベントに取り組みました。

文化資源データベースを幅広い層に利用してもらうためのキュレーションを軸として閲覧可能なバーチャルミュージアム機能の拡充、演劇博物館による「失われた公演ーコロナ禍と演劇の記録／記憶」でのオンライン展示、演劇博物館による日本初の本格的な舞台公演映像の情報検索サイト「Japan Digital Theatre Archives (JDTA)」の開設など、多くの新たな取り組みが行われました。9月に公開した「早稲田文化ラボ」では、ミュージアムの紹介をはじめ、学生の活躍や、懐かしいワセメシ・ワセマチの紹介まで、多様に豊かな「早稲田文化」を集結し、力強く発信することを目指しました。どこにいても早稲田文化を体感できるよう、動画コンテンツの拡充やキャンパスのバーチャルツアー、オンライン会議などで使える背景画像の提供、360度画像を用いた謎解き企画などを、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）と連動させながら数多く発表し、多くの反響をいただきました。これらの取り組みは、コロナ禍においても空白期間をつくらず早稲田文化発信を続けたことに加え、対面でのイベントが再開できるようになるアフターコロナにおいても、新たな文化発信の軸として継続していきたいと考えています。

文化推進部の関係4機関（坪内博士記念演劇博物館、會津八一記念博物館、大学史資料センター、国際文学館）も、新型コロナウイルス感染拡大の中でイベントを実施できない状況に苦しみながら、それぞれに独自の取り組みを展開しました。その詳細は、本年報をご覧ください。よろしくお願いします。

新型コロナウイルスの収束時期はいまだに見通せない状況ですが、本学としては、みなさまに「早稲田文化」をより身近なものとして感じていただけるよう更に力を入れて参ります。どうか、今後も本学の文化事業へのご理解とご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

ご挨拶

坪内博士記念演劇博物館館長

岡室 美奈子

(文学学術院教授)



2020年度のコロナ禍における演劇博物館（エンパク）

2020年度、世界は新型コロナウイルス（COVID-19）パンデミックという暗雲に覆われ、国内の演劇界や博物館も大打撃を受けました。演劇博物館（通称エンパク）も企画の中止や延期を余儀なくされましたが、ただ手をこまねいていただけではなく、私たちに何ができるのかを真剣に考え、実践した1年でした。まずはコロナ禍をめぐるエンパクの取組をご紹介しますと思います。

まず、緊急舞台芸術アーカイブ+デジタルシアター化支援事業（EPAD）の一環として舞台公演映像の情報検索特設サイト Japan Digital Theatre Archives（JDTA）を開設したことをご報告します。EPADは、コロナ禍により困難に陥った舞台芸術を支援し収益力強化を図ることを目的とした、令和2年度文化庁文化芸術収益力強化事業の一つです。EPADの特色は、演劇・舞踊・伝統芸能の三分野にわたる舞台公演の映像や戯曲を収集したことです。全国の劇団や劇場で死蔵されている舞台公演映像を保存し未来へと継承することはエンパクの悲願でしたが、EPAD事業のおかげでそのスタートが切れたと言えるでしょう。

また、オンライン展示「失われた公演——コロナ禍の演劇と記録／記憶」は大きな反響をいただきました。これはコロナ禍によって中止・延期となった舞台公演のチラシやポスター等を収集し、オンライン展示するプロジェクトです。実際には幕が上がることはなくともそこには初日に向けた稽古やさまざまな営みがあったはずですが、本展は、それらを「なかったこと」にしたくない、演劇史上の空白にしたくないという強い思いで企画されたものです。現場からのコメントや舞台関係者からのメッセージからは無念の気持ちとともに、現場でどのような工夫がなされ、どのようにこの危機を乗り切ろうとしたのかも伝わってきて、胸が熱くなります。（<https://www.waseda.jp/prj-ushinawareta/>）

早かった取組としては、最初の緊急事態宣言下であった4月から国内外の博物館・美術館・図書館における感染対策について綿密な調査を行い、5月19日には演劇映像学連携研究拠点のホームページに、「博物館・美術館・図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防策に関する調査報告」を掲載しました。これは世界的に見ても、かなり早かったと思います。（https://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/information/2020_0619.html）

さらに、演劇映像学連携研究拠点の特別テーマ研究として、「COVID-19影響下の舞台芸術——欧米圏の場合」を立ち上げました。これは、早稲田大学と他大学の研究者たちとの共同研究で、欧州諸国

を対象にコロナ禍における舞台芸術の状況や文化政策を調査するプロジェクトで、成果は拠点HPにて公開されています。（https://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/information/2021_0309.html）

ペストやスペイン風邪を持ち出すまでもなく、人類の歴史は感染症との闘いの歴史だと言っても過言ではありません。コロナ禍が収束しても、私たちは常にウイルスの次の襲来に備えなければならないのであり、エンパクの取組も、今この時を共有している皆様のみならず、未来の演劇界や博物館にとって、なんらかの参考になれば幸いです。

コロナ禍により展覧会の会期も変更を余儀なくされました。春季企画展として計画されていた「Inside/Out 映像文化とLGBTQ+」展は、秋季企画展として開催することができました。ほとんどの授業がオンラインやオンデマンドとなって学生の姿がまばらなキャンパスでの開催となりましたが、それでも学生を含めて多くの方がたにご覧いただくことができ、図録は増刷分も含めて完売しました。取材も多く、改めて社会的関心の高さを実感すると同時に、文化を通してともに考えようという私たちの姿勢に多くの方々共感してくださったことをたいへん心強く感じました。

特別展「競演！『三国志』の風雲児たち——日本・中国・台湾の華麗なる舞台」は、当初台湾の国光劇団の京劇展を企画していたところ、コロナ禍で叶わなくなり、急遽三国志展に変更したものです。結果的に衣裳など貴重な館蔵資料をお披露目することができました。三国志研究の専門家である渡邊義浩教授によるギャラリートークをYouTubeで配信するという新たな取組にも挑戦し、好評をいただきました。YouTubeは今後も活用していきたいと思いますので、ぜひチャンネル登録をお願いいたします。

エンパクが運営する「演劇映像学連携研究拠点」（文部科学省共同利用・共同研究拠点）もコロナ禍の影響を大きく受けました。全国から公募した研究チームにエンパクが所蔵する未発表の現物資料等を調査研究していただくという方針の転換を迫られたのです。しかしエンパクがデジタルアーカイブでも豊富な実績を有することを活かし、デジタル化された資料を主たる研究対象とすることで、リモートでも共同研究が可能な体制を構築することができました。

これを書いている2021年5月、コロナ禍はまだ収束の兆しが見えませんが、2021年度も、演劇・映像文化の維持と発展のために私たちに何ができるかを考え続けていきたいと思っています。演劇博物館への変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

ご挨拶

會津八一記念博物館館長

肥田 路美

(文学学術院教授)



2020年度の會津八一記念博物館

2020年度、新型コロナウイルス感染症の蔓延に世界が翻弄される中で、會津八一記念博物館もその大波を被り、前年度の3月3日から9月24日まで実に半年以上もの間、展示室の扉を閉ざすこととなりました。それに伴い、大型の企画展をはじめとする展示プログラムの再三にわたる変更、勤務体制の大幅な見直し、感染予防のためのもろもろの対策など、これまで経験したことのない事態を経験しました。しかしその間も展覧会に向けた準備、収蔵資料の整理・記録、保全・修復、学内外の研究者による収蔵資料調査や他館への貸出への対応、寄贈資料の受け入れ、学部授業への協力、展覧会図録・研究紀要の刊行、館蔵資料の3Dデータベースの公開の開始など、新たな取り組みも含めて怠りなく進めることができましたのは、皆さまのご理解、ご支援の賜物と感謝いたします。

まず、展覧会事業については、5月の開幕を予定していた「受贈記念 コレクター寺田小太郎 一難波田龍起、相笠昌義を中心に―」展は、刷り上がった展覧会図録を積み上げたまま丸一年後の2021年5月まで開催を延期、10月1日から開催予定だった「武蔵野台地の旧石器―校地内遺跡出土資料から―」展は2023年まで延期、年間6本の企画展を開いている富岡重憲コレクション展示室でも、「しつらいの美」「近世の禪書画 一東嶺・遂翁と春叢―」を取り止めて次年度に送るなど展示計画の大幅変更を余儀なくされました。また、台湾の國立故宮博物院から東京オリンピック・パラリンピックに合わせて提案されたニューメディア・アート展の企画「花気薫人 一黄庭堅とその交遊圏―」も、当初は2020年度の新入生を迎えるにふさわしいプログラムとして4月初から近代美術展示室にて開始の予定でしたが、正式に共同開催の覚書を締結したものの再三延期を重ね、現在は情勢の好転を急じつつ2022年春の実現を待っている状況です。

9月25日からは感染対策を十分に講じた上でようやく再開が叶い、富岡コレクションの明清時代の五彩瓷器や伊万里の名品を集めた「五彩と色絵」展、3月にたった一日開いただけで休止に追い込まれた「廣瀬文俊旧蔵品展 一永島慎二を中心に―」展をはじめ、グランドギャラリーでは大隈重信公の油彩肖像画をずらりと並べるなどして久しぶりに来館した方々に喜ばれました。12月からは絵画・工芸における山水モチーフの意味を掘り下げた「山水」展を開催。また、本来は11月下旬から1月末までを予定していた「萬象、一刀の中にあり - 篆

刻家・松丸東魚の仕事」展を、会期を数ヶ月遅らせたものの、何とか2021年3月1日から年度を跨いで2か月間開催できたのは、幸いでした。当企画展は、日本の篆刻界に大きな足跡を残した松丸東魚の刻印、秦漢古印の摹刻印、印譜など計約1,400点を受贈した記念展で、コロナ流行下にもかかわらず多数の方々が来観下さり、多角的な視点による諸論文を掲載した展覧会図録も大学博物館ならではの好評を得ました。同じく3月1日から始まった、国の重要文化財指定の埴輪女子像や初公開の近代彫刻など多彩な作品で構成した「人のかたち」展は、文化構想学部・文学部の授業教材としても活用されています。

長期にわたる展示休止期間に学芸室で力を入れたのが収蔵資料の状態点検と記録の整理拡充で、普段はなかなか手が回らない収蔵庫の整備や大型資料の点検・撮影などの作業を進めることができたのは、コロナ禍の置き土産と言えるでしょう。また、数年前から準備してきた館蔵資料の3Dモデルによるデータベースも公開を開始することができ、収録の主体となっている考古学分野での活用が進んでいます。

また、本庄早稲田の杜ミュージアムに当館の2019年度企画展「世界をつなぐやきもの 一陶磁器、遙かなる旅路」を巡回展示したほか、江戸東京博物館、神奈川県立歴史博物館、千葉県教育振興財団、栃木県立博物館、新潟市歴史博物館、香川県立ミュージアム、苫小牧市美術館、府中市美術館、パナソニック汐留美術館、東京ステーションギャラリー、国立アイヌ民族博物館、多摩美術大学美術館などへの館蔵資料の貸与・調査協力を行いました。

その館蔵資料が2020年度にも新たな寄贈を得ていっそう充実したことは喜ばしく、中でも、木村利三郎の油彩15点は、昨年度開催した「ニューヨークに学んだ画家たち」展の主眼であった同作家の版画作品群を補完する貴重な資料であり、日本の近代洋画を代表する作行きの北蓮藏の大作《湖と少女》は、さっそく修復を施した上で2階ホール奥に常設展示しています。

感染流行は現在もお収束が見通せず、様々な実体験の機会を奪われた学生諸君に対して大学博物館として何ができるか、蓄積してきた文化資源をいかに活用しその役割を果たせるかという問いに、館員一同真剣に向き合って活動していく所存です。引き続きご指導とご助力をよろしくお願いいたします。

ご挨拶

大学史資料センター前所長

大日方 純夫

(本学名誉教授)



大学史資料センターの動き（2020年）

大学史資料センターは、早稲田大学の歴史、創設者大隈重信および関係者の事績を明らかにし、これを将来に伝承するとともに、比較大学史研究を通じて、本学の発展に資することを目的としています。さらに、「早稲田学」を開設して大学教育の一環としての自校史教育を担い、百五十年史編集事業の事務局としてその中心事務を担当しています。

しかし、2020年度、資料センターの業務は、2020年2月頃から深刻化した新型コロナウイルスによる感染症の拡大という事態により、深刻かつ重大な影響をこうむることになりました。年度開始早々の4月7日、大学全体の方針をうけて資料センターを閉室し、在宅勤務を基本とすることにしました。以来3ヵ月、閉室を継続して、ようやく7月6日、全学的な措置にあわせて開室し、限定的ながら業務を再開するに至りました。

(1) 資料の収集・整理・保存・公開とレファレンス

上記のような新型コロナウイルスによる感染症の拡大による業務停止等により、一部のサービスを除き、2020年度は4月早々から、資料の閲覧・複写・問い合わせ対応、資料利用、資料の寄贈・移管、資料の貸出を休止しました。その後、11月2日をもって窓口業務を再開し、休止期間中、待機をお願いしてきた資料の寄贈・移管や利用申請について、集中的に対応し、保存・公開をすすめました。また、資料の掲載希望や所蔵写真の使用に関する許可申請について、それぞれ可否を判断して対応しました。

本年度は、個人・団体からの寄贈19件（7,156点）、本学各箇所からの移管3件（758点）がありました（新収資料の合計は7,914点）。高田早苗の多数の遺墨・遺品をはじめ、多くの貴重な資料を寄贈いただきましたことに対し、あらためてあつくお礼申し上げます。また、移管資料には、創造理工学部環境資源工学科から移管していただいた大学部理工科採鉱学科（1917年に採鉱冶金学科と改称）の鉱山・炭鉱実習の報告書484点が含まれます（鉱山実習の内容・性格と移管資料のリストについては、『早稲田大学史記要』第52巻掲載の論文と鉱山調査・実習報告書目録を参照してください）。

(2) 企画展示・講演会等の開催

例年は年3回の企画展示（春季企画展・新収資料展・秋季企画展）を、早稲田大学歴史館の企画展示ルームで開催していますが、2020年度は、この企画展示も、新型コロナウイルス感染症拡大のため、多々変更を余儀なくされました。2020年3月から4月にかけて開催する予定だった春季企画展「写真の中の早稲田 1882～2021」を中止し、例年6月下旬から8月初めにかけて開催している新収資料展（「2019年度に寄贈された資料」に関する展示）も中止せざるを得ませんでした。

その後、9月25日から本学の博物館の開館が再開されることとなったため、秋季企画展を「早稲田で学ぶ一時代の中の学生と学問」と題して、10月2日から30日まで、例年より期間を短縮して開催しました（入場者数205人）。また、2021年度に向け、卒業・入学の時期にあわせて、2021年3月22日から4月26日にかけて、春季企画展「学生たちの風景 写真の中の早稲田 1882～2021」を開催しました。これは、開催を見送った2020年度の春季企画展の内容を更新したもので、秋季企画展につづいて学生に焦点をあて、コロナ禍のなか、学生がキャンパスに戻ってくることへの願いを込めた企画としました。

(3) 出版・刊行事業

『早稲田大学史記要』：年1回、発行しています。本年度は、第52巻（A5判、232頁）を発行し、また、Web（図書館運営の「早稲田大学リポジトリ」）で公開しました。同巻には、論文2本と、展示等の記録、『早稲田大学百五十年史』の編纂とかかわるセミナーの講演録、聞き取り記録などが掲載されています。

(4) 自校史教育の展開

①「早稲田学」：本年度も、グローバルエデュケーションセンター設置科目として「早稲田学」を開講し、学生に対して早稲田大学の歴史を講義しました。クォーター科目として、本年度は、『「早稲田学」通史編α（近代史のなかの早稲田大学）』（春クォーター、登録者200名）、『「早稲田学」通史編β（現代史のなかの早稲田大学）』（夏クォーター、同188名）、『「早稲田学」人物編α（「創設者」大隈重信の生涯）』（秋クォーター、同190名）、『「早稲田学」人物編β（建学者の思想と学生へのまなざし）』（冬クォーター、同132名）を開講しました。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、すべてオンラインで実施しました。

②新入生向け教育プログラム：オンデマンド講義「わせたライブABC～早稲田大学で学ぶ前に～」のテーマ「早稲田大学の歴史」を担当しました。

(5) 百五十年史編集事業

大学史資料センターが事務を担当し、事業の推進にあたっています。本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大による学内立入禁止措置や図書館等の休館・利用制限により、編集・執筆の推進が滞らざるを得ず、資料の調査・収集も大きな制約を受けることとなりました。そうしたなかでしたが、2021年度に第1巻の刊行を具体化すべく原稿の執筆・編集の進捗をはかり、また、第2巻の構成案の検討をすすめました。さらに、『早稲田大学百五十年史』をWeb上で編集・公開が行えるWikiシステムの構築を推進しました。

データベースの構築・公開も、上記と同様の理由から滞らざるを得ませんでした。早稲田人名データベース、『早稲田学報』記事データベースなど、既存のデータベースの拡充をはかり、さらに、「「早稲田」の歴史総合データベース」・「早稲田150年の歩み掲示板」など、新規データベースのシステム構築をすすめました。

例年開催している「大学史セミナー」については、本年度、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開催を見合わせました。

(6) 共催・協力事業

各地域・団体の要請に応える協力事業として、例年講師を派遣している佐賀市大隈重信記念館の「大隈祭」（5月に実施）は、2020年度、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりました。佐賀市大隈重信記念館常設展示の展示パネルと館内放映、高松市歴史資料館の「わがかがわスポーツにまつわるエトセトラ」パネル展示、旧国立駅舎の近代化遺産フォーラムトークセッション投影資料、国立市民駅前プラザの文化財ウィークにおける国立市講演会投影資料などに協力しました。

ご挨拶

国際文学館館長 十重田 裕一
(文学学術院教授)



2020年度の国際文学館（村上春樹ライブラリー）

新型コロナウイルス感染拡大の影響が全世界に及んだ一年となりましたが、国際文学館（村上春樹ライブラリー）では開館の準備を着々と進めてまいりました。来館者の皆様、館に関係する方々の健康と安全を最優先に考え、2021年4月に予定していた開館を10月1日に延期することに決定いたしました。一日でも早く、皆さまをお迎えしたいと考えております。

2020年度にシンポジウムの開催を予定し、2019年11月と連続して行うことで、館の方向性を示すことを企図していましたが、開館延期と同様の理由で、中止の判断をいたしました。

国際文学館の所在地である東京では、2021年4月25日からの「緊急事態宣言」が、当初想定期間から延長され5月末までとなるといった状況がつづき、2021年度（あるいはそれ以降）のイベントの内容や開催方法などについては、情勢を見極めながら慎重に検討して行く予定です。この点につきましても、ご理解をいただければ幸いです。

世界的なパンデミックの厳しい状況下にあっても、国際文学館は来るべき開館の日に向けて、準備を進めてまいりましたが、以下ではその年次報告をしたいと存じます。

前年度に引き続き、村上春樹氏からの寄託・寄贈資料を継続的に受け入れ、整理作業を進めつつ、どのように館蔵資料の公開利用を推進していくかの検討を重ねてきました。文化推進部関係部署と図書館の協力を得て、I.B.Museumに収蔵資料データの蓄積を開始し、図書関連は「早稲田大学図書館システムWINE」にて、その他は「早稲田大

学文化資源データベース」にて、利用者に提供する方向です。

年度末には、日本文学研究者のロバート キャンベル氏（東京大学名誉教授・国文学研究資料館名誉教授）を早稲田大学特命教授・国際文学館顧問にお迎えすることが決定、館の運営にご協力をいただいております。

2020年9月には、本学の校友でもある映画監督・七里圭氏に依頼し、4号館の改修から国際文学館完成までを記録する映画の制作を開始しています。

その改修工事は、本学特命教授の隈研吾氏に設計を依頼していたものですが、2021年3月に完了し、その直後に、TBSの報道番組「NEWS 23」（2021年4月8日放映）が、工事の初期からの取材を生かして国際文学館の建築の魅力を報じ、大きな反響を呼びました。

館内に併設されるカフェの具体的な検討を在学生とともに、2020年9月に開始いたしました。カフェについては、学生たちの自主性を尊重し、運営にあたってもらう予定で、2021年1月には経営者の募集を行いました。カフェにとどまらず、国際文学館での文化企画の立案・実行も学生たちに担ってもらいたいと考えていますが、キャンパスに戻って実践的な挑戦をする学生たちの活動を応援するために、「村上春樹ライブラリー開館記念学生応援キャンペーン募金」をたちあげました。募金の実施は2021年度に入った4月1日から6月30日までですが、最初期から多くの方々より温かいご支援をいただきました。この場をかりて、深く感謝申し上げたいと存じます。

文化事業 総括

早稲田大学では、本学が持つ有形・無形の文化資産をもって、文化面においても日本のリーディングユニバーシティであるよう、多岐にわたる活動を行っています。それらの取り組みは、本学が一丸となって取り組みを行っている“Waseda Vision 150”の大きな柱のひとつとして位置付けられており、学内各箇所が個別に実施してきた文化事業活動に優先・重点事業を設定し、より高い文化力を発揮できるように取り組んでいます。

1. “Waseda Vision 150”への取り組み <https://www.waseda.jp/inst/vision150/>

本学では、アジアのリーディングユニバーシティとして確固たる地位を築くための中長期計画“Waseda Vision 150”を策定しました。文化推進部では、「核心戦略6 早稲田らしさと誇りの醸成をめざして—早稲田文化の推進」を担当し、以下の複数プロジェクトを実施。2020年度はSTAGE 2の3年目にあたり、STAGE 1の5年間の成果を元に、引き続き多くの事業を遂行しています。

【8つのプロジェクト】

- 1) 文化・芸術の推進とキャンパスからの文化発信プロジェクト
(webサイトやFacebook、Twitter、Instagram、YouTube、メールニュース等で本学の文化・芸術活動を幅広く広報)
- 2) 地域との連携による文化発信と施設の有効活用プロジェクト (本学に縁が深い都県を中心に、連携事業を実施)
- 3) バーチャルミュージアム—文化資源データベース公開の強化・拡充プロジェクト
(文化資源データベースの公開：公開データベース数91、公開データ数98万件以上、バーチャルミュージアム機能の公開) (2021年3月現在)
- 4) 早稲田大学百五十年史編纂プロジェクト (百五十年史1～3巻の作成と関連シンポジウム等の開催) (2021年3月現在)
- 5) 早稲田スポーツの新たな展開プロジェクト (早稲田アスリートプログラム (WAP) 等の推進)
- 6) 早稲田らしさと誇りの探求プロジェクト
(早稲田大学歴史館、早稲田スポーツミュージアムの開館。「大隈重信演説談話集」の配布と「大隈重信自叙伝」の刊行)
- 7) ワセダ演劇の発信力強化プロジェクト (演劇博物館各種イベントの実施。早稲田小劇場どらま館での演劇公演)
- 8) 国際文学館開設プロジェクト (2018年12月に新しく追加されたプロジェクト。2021年10月の一般公開を目指す)

2. キャンパスのミュージアム化と世界に向けての文化発信 —早稲田の文化を未来の世代へ—

早稲田大学は、1882年の創立以来、坪内逍遙らが文学・演劇研究を開拓し、図書館・博物館における文化的資料の収集・公開を進めるとともに、芸術家、小説家、批評家、演劇人、映画人など、文化の発展に寄与する多くの人材を輩出してきました。また、国宝2件、重要文化財7件、重要美術品8件を含む図書、図書資料、美術品、書画、博物資料、映像資料、記録文書類など、500万点以上を所蔵しています。本学はこれらの「早稲田文化」の資源の公開と活用を通して、大学の使命の一つである社会貢献に努めています。現在、価値観の多様化や広範な異文化間の交流、多文化社会の形成等により、本学の文化的使命はますます大きくなっています。

こうした社会状況のなかで、本学が積極的に取り組む独創的な事業を紹介します。

(1) キャンパスのミュージアム化

学内の各所にすぐれた芸術・美術作品を展示し、「早稲田らしい品格のあるキャンパスの雰囲気」の場の形成を目的としています。学生・教職員・来校者が直接に高い芸術性を持つ作品に触れることは、豊かな心と教養を涵養し、人格形成にも役立つと考えています。また、キャンパスがこうした芸術・美術作品に囲まれていることは、それ自体が誇らしいことでもあります。2014年には27号館地下1階に「ワセダギャラリー」をリニューアルオープン、2015年には同館1階を改修してショールームスペースを設置するなど、着実に文化活動の拠点を拡大してきました。2018年3月には既存の坪内博士記念演劇博物館、會津八一記念博物館に加え、3つ目のミュージアム「早稲田大学歴史館」を開館。本学の歴史(過去・現在・未来)に関する資料や情報を、単なる通史の平板な陳列ではなく、来館者がそれぞれの関心に応じて新たな発見ができるよう、多様な切り口で提示しています。2019年3月に戸山キャンパスの「早稲田アリーナ」内に4つ目のミュージアム「早稲田スポーツミュージアム」を開館、長い歴史を彩る栄光のシーンや象徴的なエピソード等を通じて、常に時代の先頭を走ってきた「早稲田スポーツ」の個性や魅力を感じていただくことができます。2020年10月には、埼玉県本庄市と本学が共同し、早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンターに、5つ目のミュージアム「本庄早稲田の杜ミュージアム」を開館し、本庄市で出土した貴重な資料の数々と、本学が所蔵する多くの所蔵文化財(日本・エジプト・オセアニア関係等)を最新の研究成果とともに展示し、地域の歴史と文化などを未来の世代に受け継ぐ取り組みを行っています。

(2) バーチャルミュージアムの実現

本学のバーチャルミュージアムは、本学が有する文化資源を三次元などの先端技術による仮想空間の中で精細かつ鮮明に再現し、時と空間の制約を超えた体験を可能とすることを目指します。

2017年6月に公開した「早稲田大学文化資源データベース」は、実際には手に触れることが難しい美術工芸品や博物館資料をはじめとする本学の貴重な文化的資産を、ワンストップで横断検索し、資料の画像情報や付属資料詳細に接することができます。公開データ数は現在98万件を超え、今後も更なる充実を目指しています。

2020年7月には、文化資源データベースの幅広い層への利用を展開するため、キュレーションを軸として閲覧可能な機能であるバーチャルミュージアムの公開を開始し、閉館期間中も大学が有する貴重な文化資源を広く社会に発信し続けることができました。

3. 早稲田大学国際文学館(通称「村上春樹ライブラリー」)開館に向けて

2019年6月、早稲田大学国際文学館(通称「村上春樹ライブラリー」)を設立し、村上文学を基点に、グローバルに文学を研究・発信し、国際交流を図る取り組みを始めました。村上春樹氏の厚意で、作品に関連する貴重な資料や海外で翻訳された膨大な書籍、蒐集した数万枚のレコード等を、本学に寄託・寄贈いただくことが契機となって生まれた画期的な試みになります。

これらの資料を適切に整理・保管し、閲覧に供することによって、新たに「村上春樹文学」「国際文学」「翻訳文学」の研究に取り組める環境をつくり、文学および翻訳に関する世界中の研究者や村上文学の愛好者が必ず訪れるべき研究拠点の構築を目指します。また、館内には、研究者のための資料室、閲覧席、セミナースペースのほか、多くの方々が村上ワールドを体感できるカフェやオーディオスペース等も計画されています。

2021年3月末に建築家隈研吾氏によって斬新なリノベーションを施した4号館施設の改修工事の竣工を迎え、2021年10月の開館に向けて準備を進めています。



国際文学館(村上春樹ライブラリー)

1. 坪内博士記念演劇博物館

(1) 研究活動

演劇映像学連携研究拠点

●事業の主旨

演劇映像学連携研究拠点は、2009年度に文部科学大臣から認定を受けた「共同利用・共同研究拠点」である。2009～2013年度に「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」を実施した後、2014年度には再認定を受けて2019年度まで事業を推進してきた。さらに2020年度には再々認定を受け、新たな事業を開始した。初年度の2020年度には、演劇博物館に収蔵されながらいまだ十分に学術的に活用されていない貴重な未発表・未公開資料群を研究資源として提供するという第2期の方針を発展させるべく、研究課題数や課題区分の拡充を図った。特にこれまでの「テーマ研究」、「公募研究」に加え、演劇博物館の若手研究者による将来の共同研究に向けた演劇・映像資料の調査プロジェクトである「奨励研究」や、コロナ禍における演劇文化の状況を調査・記録する「特別テーマ研究」などを設け、多角的な事業の展開に着手した。

●共同研究事業 ※() は研究代表者

○テーマ研究 1 課題

1. 別役実草稿研究（梅山いつき）

○公募研究 5 課題

1. 千田資料によるアーニー・パイル劇場の基礎研究—1946年から1948年までの伊藤道郎の舞踊実践とジャンルを越境した活動記録（串田紀代美）
2. 栗原重一旧蔵楽譜を中心とした楽士・楽団研究—昭和初期の演劇・映画と音楽（中野正昭）
3. 映画宣伝資料を活用した無声映画興行に関する基礎研究（岡田秀則）
4. 役者絵本の研究（桑原博行）
5. 坂川屋旧蔵常磐津節正本板木の基礎的研究（竹内有一）

○特別テーマ研究 3 課題

1. 新型コロナウイルス感染症の影響下における日本演劇界の調査研究（後藤隆基）
2. COVID-19影響下の舞台芸術と文化政策—欧米圏の場合（伊藤倫）
3. 博物館・美術館・図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防策に関する調査（佐藤夕紀・久利希）

○奨励研究 6 課題

1. 人形浄瑠璃を主とする太閤記物近世演劇の基礎資料調査と研究（原田真澄）
2. 土方与志のモスクワでの生活（伊藤倫）
3. 初代水谷八重子資料の調査による貫戦期新派の研究（後藤隆基）
4. 日本映画産業にみる性的少数者の表象をめぐる作品製作・興行・解釈に関する基礎研究（久保豊）
5. 近代日本における『桃花扇』の受容について—東京専門学校を中心に（李思漢）
6. 松竹座チェーンの興行における映画上映とアトラクション上演（柴田康太郎）

●拠点主催事業

○くずし字判読支援事業

2016年度から凸版印刷と進めてきた「くずし字判読支援事業」の成果の教育利用の可能性を開拓する事業を行った。これまで蓄積したくずし字字形データを凸版印刷が開発したオンラインくずし字翻刻支援システム「ふみのほ*ぜみ」と組み合わせ、本学大学院生を対象に2回ワークショップを実施した（2020年11月16日、2021年1月18日）

○ジャンル横断的な舞台芸術の公演情報に関する研究

学内外の研究者を招き、オンラインと対面を併用して「舞台芸術におけるメタデータについての意見交換会」を開催した（2020年12月24日）。

○デジタル化されたサイレント映画の活用

新派映画『生さぬ仲』を展示等で使用しやすくするため、①デジタルデータ上で、繋ぎ間違いのあるフィルムの場面順序を修正し、欠落部分を字幕で補填した上で、②弁士3名、邦楽演奏者2名、ピアニスト1名を招き、パフォーマンスを収録した（2021年1月26日）。この成果は2021年度の企画展示に関連して一般公開予定である。

Japan Digital Theatre Archives (JDTA)

令和2年度文化庁文化芸術収益力強化事業として寺田倉庫株式会社及び緊急事態舞台芸術ネットワークが受託した緊急舞台芸術アーカイブ+デジタルシアター化支援事業（EPAD）の再委託を受け、日本初の本格的な舞台公演映像の情報検索サイト Japan Digital Theatre Archives (JDTA) を開設。デジタル化された舞台公演映像1,283本、戯曲539本、舞台美術資料2,500点、Eラーニング動画63本を新たに収蔵した。

JDTAは、収集したメタデータ、画像資料、映像資料を紐づけ、総合的にみせる仕様となっており、多彩な検索機能を有するほか、有料配信のための権利処理が完了した作品について3分程度の抜粋映像の視聴ができる。また、日英二か国語表記とすることで、日本の舞台芸術の魅力を広

文化事業

2020年度 研究活動・教育活動

く国内外に発信している。さらに、2021年4月にジャパンサーチへのデータ連携を行ったことで、データ活用の可能性が大きく広がった。

本事業で収集された全ての資料は、早稲田大学内での教育利用、演劇博物館での展示利用や館内視聴についてそれぞれ許諾を得ており、今後は、既存のAVブースで広く閲覧ができるよう整備を進めると共に、関連するテーマの展示で活用する。



2. 會津八一記念博物館

(1) 研究活動

- ①中国仏教美術史（特に唐代敦煌壁画）
- ②タイ仏教美術（特に現代タイにおける地獄表現）
- ③日本近世美術における人体表現
- ④古墳時代前・中期の石製祭具

(2) 教育活動

- ①「博物館実習」への支援（展示室、資料等の提供）
- ②文学部、教育学部等の授業協力

3. 大学史資料センター

(1) 研究活動

- ①『早稲田大学百五十年史』の編纂：早稲田大学史の研究
- ②大隈重信および関係者の事績研究
- ③比較大学史研究：高等教育をはじめとする比較大学史の研究
- ④大学行政文書の管理保存研究：大学アーカイブスの研究
- ⑤所蔵・寄贈資料の調査研究

(2) 教育活動

- ①「早稲田学」通史編、「早稲田学」人物編：グローバルエデュケーションセンター設置科目
- ②わせだライブABC



展覧会

坪内博士記念演劇博物館



演劇博物館 2020年度秋季企画展 Inside/Out —映像文化とLGBTQ+—

会期 9月28日(月)～2021年1月15日(金)

開館時間 11月13日(金)までは10:00～16:00で土日休館
11月16日(月)からは10:00～17:00で土日開館

会場 演劇博物館 2階 企画展示室

主催 演劇博物館・演劇映像学連携研究拠点

助成 公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団

本展は、性的マイノリティや同性間の親密さがどのように日本映画やテレビドラマにおいて描かれてきた／描かれてこなかったかについて、その歴史を戦後から2020年初めまで辿ることで明らかにした。製作関連資料、宣伝資料、スチル写真、台本、パンフレットといった館蔵資料を中心に、

映画会社、テレビ局、監督等からの協力を得て、豊富な資料を用いて6章立てで構成した。映画やテレビドラマ史だけでなく社会情勢の流れを提示する年表や感想を寄せてもらうコーナーを設置。メディアの与える影響や今後の映像文化の展望、社会の在り方を考える感想が寄せられた。

●来場者数 5,502名



©2019 映画『風たちの午後デジタルリマスター版』製作委員会



講演会・シンポジウム

演劇博物館 2020年度秋季企画展

「Inside/Out —映像文化とLGBTQ+—」記念プログラム

『風たちの午後』デジタルリマスター版 上映会

日時 10月16日(金) 16:30～18:20

会場 小野記念講堂

主催 演劇博物館

協力 「風たちの午後 デジタルリマスター版」製作委員会

講師 久保豊(金沢大学准教授)

1980年公開の『風たちの午後』は、矢崎仁司監督が日本大学の学生だった24歳当時に16ミリフィルムで撮影した長編デビュー作品だ。主人公夏子の美津に対する恋心を描く。『無伴奏』(2016年)や『さくら』(2020年)に見られるように、矢崎監督は同性愛的欲望を描いてきた監督であ

る。日本映画が描いてきた同性愛の多くは、男性同士の物語である。そのなかで女性同士の物語が存在してきたことを現代の観客に示し、本作以降、日本映画がどのように女性同士の欲望を描いてきたのかを、振り返る機会となった。

●来場者数 30名

定員(200名)を1/5以下にして開催

文化事業

2020年度 展覧会・催し物



©2018 JSLTime



講演会・シンポジウム

演劇博物館 2020年度秋季企画展

「Inside/Out ——映像文化とLGBTQ+」記念プログラム

誰のためにつくるのか～『虹色の朝が来るまで』上映会

日時 11月23日(月・祝) 14:00～16:30

会場 小野記念講堂

主催 演劇博物館、新宿から発信する「国際演劇都市TOKYO」プロジェクト実行委員会

助成 令和2年度 文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業

協力 JSLTIME、シュアール、filmot

トークゲスト 今井ミカ(映画監督)、久保豊(金沢大学准教授)

映画『虹色の朝が来るまで』(2018年)は、ろう者の今井ミカ監督が群馬と東京を舞台に、ろう者であり性的マイノリティでもある人々(ダブルマイノリティ)の交流を全編手話で描いた作品である。また、今井監督にとって本作は初めて音響を施した

作品であり、手話通訳者を交えた上映後トークでは、音響の側面から今井監督の映画製作や想定する観客層に対する姿勢に表れた変化についてや、会場からの質問にもお答えいただき貴重な時間となった。

●来場者数 46名

定員(200名)を1/4にして開催



展覧会

坪内博士記念演劇博物館



演劇博物館 特別展

「競演!『三国志』の風雲児たち—— 日本・中国・台湾の華麗なる舞台」

会期 第1期 9月28日(月)～10月23日(金)

第2期 10月26日(月)～11月24日(火)

第3期 11月26日(木)～12月25日(金)

※会期中は3度にわたって展示資料の一部を入れ替えた。

会場 演劇博物館1階 特別展示室

主催 演劇博物館・演劇映像学連携研究拠点

「三国志」物語は、小説や漫画、テレビ人形劇、ゲームなどを通じて多くの人びとを魅了している。伝統演劇の世界でも、原作小説『三国志演義』を題材とした演目が多数上演されてきた。本展は、日本の歌舞伎、中国の京劇、台湾の布袋戯(ポテヒ)

に焦点を当て、「三国志」関連演目の特徴と独自の発展過程を紹介したものである。当館コレクションより精選した衣裳、人形、錦絵、プログラム、映像など多種多様な演劇資料を展示するよい機会となった。

●来場者数 4,634名

文化事業

2020年度 展示会・催し物


 展示会ギャラリートーク

演劇博物館 特別展

「競演!『三国志』の風雲児たち—— 日本・中国・台湾の華麗なる舞台」第Ⅱ期 ギャラリートーク

公開日 11月17日(火)

会場 YouTube

出演 渡邊義浩(文学学術院教授、文化推進担当理事)

早稲田大学文学学術院教授であり、文化推進担当の渡邊義浩理事をお迎えし、展示解説及び『三国志演義』の魅力についてお話しいただいた。聞き手は岡室館長と李思漢助手が務めた。コロナ禍であったため、来館者を展示室に案内してギャラリートークを行うことはせず、閉館後に収録し、オンラインでの配信を実施した。コロナ禍ならではの取り組みであり、オンラインによるギャラリートーク配信の先駆けになった。

●再生回数 712回(2021年5月10日時点)

 催し物

坪内博士記念演劇博物館

エンパキシネマ2020

日時 2020年10月9日(金) 18:30~20:30

会場 小野記念講堂

主催 演劇博物館、新宿から発信する「国際演劇都市TOKYO」プロジェクト実行委員会

助成 令和2年度 文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業

語り 澤登翠(活動写真弁士)、山城秀之(活動写真弁士)、山内菜々子(活動写真弁士)

音楽 柳下美恵(ピアニスト)



今年度の「エンパキシネマ」は、コロナ禍で本学が大学内施設を用いて公式に開催するイベント第一弾となった。2020年は新型コロナウイルスの感染拡大により芸術文化の継続が世界規模で危ぶまれ、様々な芸術分野がオンライン配信に取り組んできた。コロナ禍において人々が切望した芸術鑑賞にみる他者とのゆるい繋がりを、シネマという映画体験そのものが体現する。「エンパキシネマ」は、弁士と生演奏のパフォーマンスだけでなく、貴重な16mmフィルムでの上映を重視することで、映画フィルムの美しさや技術のしなやかさを視覚や聴覚のみならず、肌感覚で味わっていただくことを重視した。

●来場者数 36名

定員(200名)を1/5以下にして開催

文化事業

2020年度 展覧会・催し物



展覧会

坪内博士記念演劇博物館



演劇博物館

オンライン展示「失われた公演——コロナ禍と演劇の記録／記憶」

公開日 10月7日(水)

会場 特設Webサイト (<https://www.waseda.jp/prj-ushinawareta/>)

主催 演劇博物館・演劇映像学連携研究拠点

本展示は、コロナ禍の影響下にある現在を、演劇という視座から記録し、かつ2020年に上演が叶わなかった公演の記録／記憶を後世に伝えることを企図している。

最初の緊急事態宣言発令から半年となる10月7日、このオンライン展示を公開し

た。Webサイトでは、コロナ禍で中止・延期となった公演のチラシ画像等やその公演情報とともに、関係者からのコメントを掲載。当時の経緯や想いを紹介した。この記録／記憶は決して忘れてはならないという考えのもと、今後も資料収集および展示の更新を続けていく。



展覧会ギャラリートーク

オンライン展示「失われた公演——コロナ禍と演劇の記録／記憶」関連オンライン企画

【鼎談】コロナ禍のなかの歌舞伎——失われた舞台と新表現の地平

公開日 2021年1月15日(金)

会場 YouTube

出演 十代目松本幸四郎、常磐津和英太夫／鈴木英一

司会 児玉竜一（演劇博物館副館長）

2020年の歌舞伎界は、新型コロナウイルス感染症の影響で、数か月にわたって舞台が中止となる未曾有の事態に襲われた。苦境の中で新たな試みを続けざまに打ち出したのが、当代きっての奇想の役者、十代目松本幸四郎丈。世界初のZoomを用いた「図夢歌舞伎」、舞踊家47名が映像で集う

「夢追う子〜ハレの日への道しるべ」、国立劇場の再開場公演での新作「幸希芝居遊」など、アイデアは汲めども尽きることがない。そんな幸四郎丈に、コロナ禍を歌舞伎がどう生きのびたか、その渦中で生まれた表現の可能性について伺った。

●再生回数 2,861回(2021年5月10日現在)

文化事業

2020年度 展覧会・催し物



講演会・シンポジウム

坪内博士記念演劇博物館



Bernhardt_Hamlet2_Wikimedia Commonsより

演劇博物館 2020年度シェイクスピア祭演劇講座

もしも私が女なら～シェイクスピア劇におけるジェンダーとセクシュアリティ

日時 10月27日(火) 18:30～20:30

会場 オンライン

主催 演劇博物館・演劇映像学連携研究拠点

講師 北村紗衣(武蔵大学人文学部英語英米文化学科准教授)

当初、5月27日に予定されていた本イベントであったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により延期が決定。一時は開催も危ぶまれたが、10月に当館初のオンラインイベントとして実施した。講演では、シェイクスピア劇における異性装/異性配

役の話を中心にお話いただいた。北村先生が言及する様々な視点は新鮮な驚きを提供してくれるとともに、これまで無自覚であった自身の姿勢に気づかされもし、とても刺激的な時間であった。



催し物

坪内博士記念演劇博物館



出張体験教室〈狂言〉

日時 ①12月2日(水) 13:15～14:05

②12月23日(水) 10:00～10:50

③2021年1月22日(金) 10:30～11:20 ※新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

会場 ①都立町田の丘学園

②都立大泉特別支援学校

③都立花畑学園 ※新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

主催 演劇博物館、新宿から発信する「国際演劇都市TOKYO」プロジェクト実行委員会

助成 令和2年度 文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業

講師 善竹十郎(狂言師)、善竹大二郎(狂言師)

障がいをもった子どもたちを対象として、都内の特別支援学校に出向いて行うenpaku出張ワークショップ12年目。新型コロナウイルス感染予防として、一部の学校ではオンライン参加という形で実施した。演劇博物館作成のオリジナル教材で学

んだうえで「本物」の芸を見たことから狂言に親しみが持て、さらに、その後のワークショップで狂言の型を「体験」したことで、より一層理解が進んだようだ。笑顔あふれる参加者の表情から、本教室が充実していたことを実感した。

●来場者数 ①41名 ②80名 ③中止

文化事業

2020年度 展覧会・催し物



催し物

坪内博士記念演劇博物館



出張体験教室〈常磐津〉

日時 11月17日(火) 10:00~10:50

会場 都立町田の丘学園

主催 演劇博物館、新宿から発信する「国際演劇都市TOKYO」プロジェクト実行委員会

助成 令和2年度 文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業

講師 常磐津和英太夫(太夫)、常磐津菊与志郎(三味線方)

障がいをもった子どもたちを対象として、都内の特別支援学校に出向いて行うenpaku出張ワークショップ12年目。講師が子どもたちに普段なじみのない袴を着用するところから始まり、三味線のつくりなどクイズ形式で分かりやすく説明した。敷

居高く思われる伝統芸能も、より身近な存在と肌で感じたようであった。歌舞伎における蜘蛛の曲にあわせて蜘蛛の巣テープを投げると、歓声が上がった。講師の巧みなリードで、参加者は終始和やかな表情であった。 ●来場者数 50名



催し物

坪内博士記念演劇博物館



第83回 逍遙祭 逍遙をかたる人々～逍遙祭のあゆみ

日時 2021年2月26日(金) 15:00~16:30

会場 オンライン

主催 演劇博物館・演劇映像学連携研究拠点

講師 児玉竜一(演劇博物館副館長)

逍遙生前から逍遙を囲む会があり、あまりに熱海訪問の門下生が多いため、日をまとめて一堂に会することにしたのが昭和3年からの徜徉会で、逍遙祭はその流れの上に開催されてきた。

演博には、逍遙を語った方々の肉声が数

多く残されている。その一端をご紹介しながら、逍遙祭のあゆみをたどることで、その生前の姿に触れながら、逍遙山脈を形成する人々を整理するとともに、逍遙を直に知っていた人たちによる思い出の肉声を紹介することを試みた。 ●来場者数 52名

文化事業

2020年度 展覧会・催し物

展覧会

坪内博士記念演劇博物館



2021年新収蔵品展

会期 2021年3月20日(土・祝)～4月29日(木・祝)

開館時間 10:00～17:00

会場 演劇博物館1階 特別展示室

主催 演劇博物館・演劇映像学連携研究拠点

近年、当館のコレクションに加わった資料より精選した、珠玉のラインナップを紹介した。浮世絵師・中井芳瀧の肉筆芝居絵帖、崑劇舞台で使われた帽子、ロシアより日本に渡り活躍したバレリーナのオリガ・サファイアが着用した舞台衣裳、そして俳

優・三國連太郎が役者道への思いを吐露した書「四十年目の落書」など、初お披露目の資料は全て見ごたえ十分で、訪れた方々に演劇という芸術の奥深さを伝えることができた。

●来場者数 3,151名

展覧会

會津八一記念博物館



五彩と色絵

日時 9月25日(金)～11月23日(月)

会場 會津八一記念博物館1階 富岡重憲コレクション展示室

主催 會津八一記念博物館

富岡重憲コレクションには、明代の嘉靖年間(1522～1566)頃に江西省の景德鎮民窯で焼かれた古赤絵(五彩婦人図盤)、万暦年間(1573～1620)に生産された濃彩の万暦赤絵(五彩牡丹文盤等)などがあ

る。中国の陶磁器で上絵付けによってさまざまな文様を施す五彩は、日本に伝わって赤絵、色絵などと呼ばれ、作られるようになった。明清時代の五彩と伊万里の色絵、彩りゆたかな世界を展示した。

●来場者数 683名

文化事業

2020年度 展覧会・催し物

展覧会

會津八一記念博物館



廣瀬文俊旧蔵品展 ―永島慎二を中心に―

日時 9月25日(金)～11月23日(月)
会場 會津八一記念博物館 2階 グランドギャラリー (常設・企画大展示室)
主催 會津八一記念博物館

廣瀬文俊氏(1950～2019)のコレクションの中心となるのは、漫画家・永島慎二(1937～2005)の作品である。同氏は漫画雑誌『ガロ』で特集が組まれる漫画家として、また手塚治虫・石森章太郎とともに『COM』の編集に携わった人物として知られている。本展では、廣瀬氏旧蔵の永島慎二作品を中心に、ウジェーヌ・カリエール、藤田嗣治、国吉康雄、藤井浩佑などの作品に加え、廣瀬氏が生涯敬愛し続けた画家・中村彝のデッサンもあわせて展示した。

●来場者数 917名

展覧会

會津八一記念博物館



山水

日時 12月5日(土)～2021年1月31日(日)
会場 會津八一記念博物館 2階 グランドギャラリー (常設・企画大展示室)
主催 會津八一記念博物館

深山はかつて神仙の住処や冥界に通じる場として畏敬の念をもって見られ、山水図は不思議な魅力をもっている。江戸時代前期の禅僧・玉舟宗璠(1600～1668)が賛を施した「瀟湘八景図屏風」、近代の橋本雅邦(1835～1908)の「山水図屏風」、富岡鉄斎(1836～1924)の「四季山水之図」四幅対、中国明代の山水を描いた掛幅や画卷など、日本と中国の山水画に加え、山水をモチーフとする東洋陶磁作品を展示した。

●来場者数 810名

文化事業

2020年度 展覧会・催し物



展覧会

會津八一記念博物館



松丸東魚篆刻作品等受贈記念

萬象、一刀の中にあり —篆刻家・松丸東魚の仕事

日時 2021年3月1日(月)～4月30日(金)

会場 會津八一記念博物館 2階 グランドギャラリー (常設・企画大展示室)

主催 會津八一記念博物館

松丸東魚(1901～1975)は昭和期に活躍した篆刻家であり、刻印の仕事はもちろん、秦漢古印の研究や書籍の出版も手掛け、日本の篆刻界に大きな足跡を残した。2019年度、ご子息である松丸道雄氏(東京大学名誉教授)より、東魚刻印163類、

秦漢古印を中心に摹刻した撫古印330類をはじめ、東魚が手掛けた印譜、木活字、工芸作品、書作品、製作用具、刊行物など、松丸東魚篆刻作品等計1,382点を一括して受贈した。文字を刻することに生涯を捧げた松丸東魚の仕事の全貌をたどる。

●来場者数 2,592名



展覧会

會津八一記念博物館



人のかたち

日時 2021年3月1日(月)～4月30日(金)

会場 會津八一記念博物館 1階 富岡重憲コレクション展示室

主催 會津八一記念博物館

富岡重憲コレクションによる、古代から近代までの人の形をあらわした作品を特集した展覧会。古墳時代の巫女をかたどった女子像と、甲を着けた武人の埴輪、鎌倉時代の密教白描図像「阿吒薄俱大神王図」、天文9年(1540)の銘がある「べしみ」を

含む室町時代の能面、色鮮やかな衣をまとった江戸時代の伊万里焼人形、唐時代の三彩神将像と三彩胡人像、大勢の唐子が遊ぶ様子を描いた明時代の「青花唐子図壺」などを展示した。

●来場者数 1,778名

文化事業

2020年度 展覧会・催し物

展覧会

大学史資料センター



早稲田で学ぶ ―時代のなかの学生と学問―

日時 10月2日(金)～10月30日(金)
会場 早稲田大学歴史館 企画展示ルーム
主催 大学史資料センター

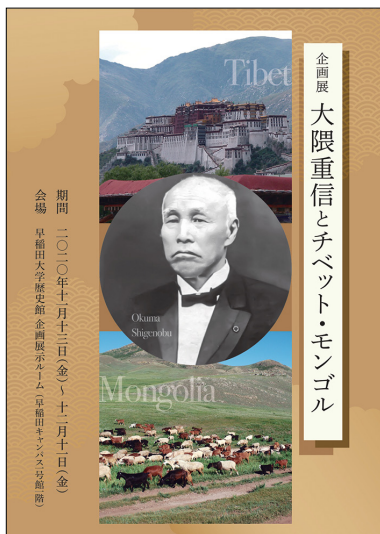
いつの時代も、早稲田の学生たちは学問と真摯に向き合ってきた。講義の内容を書き記したノートをはじめ、学生たちが残した学びの記録を紹介しながら、東京専門学校の開校当初から戦後直後まで、移り変わる時代のなかで学びつづけてきた学生たちの姿をたどった。

●来場者数 205名

展覧会

文化企画課

早稲田大学歴史館



大隈重信とチベット・モンゴル

日時 11月13日(金)～12月11日(金)
会場 早稲田大学歴史館 企画展示ルーム
主催 中央ユーラシア歴史・文化研究所

大隈重信の外務大臣在任中に決定されたチベット潜入計画により、1901年に日本で二番目にラサ入りした成田安輝、1905年にラサに入り大隈の後援を受けながらダライラマ13世と日本のパイプ役となった寺本婉雅、モンゴル人教育と人類学調査のためカラチン王旗にわたった鳥居龍蔵の3人に光をあてる。大隈重信とチベット・モンゴル地域との交流の実相を明らかにすべく彼らが大隈に宛てた書簡や当時の新聞記事、公文書などを展示した。

●来場者数 552名

文化事業

2020年度 展覧会・催し物



展覧会

文化企画課

早稲田大学歴史館



早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業

「墨伝う思い ―書を通して知る文人 坪内逍遙―」

日時 2021年1月18日(月)～2月22日(月)

会場 早稲田大学歴史館 企画展示ルーム

主催 早稲田大学文化企画課、美濃加茂市民ミュージアム

早稲田大学と岐阜県美濃加茂市は2007年4月に文化交流協定を締結し、坪内逍遙大賞、学生野外劇、共催展覧会など、さまざまな取り組みを協働で展開している。本展では、両者にゆかりの深い坪内逍遙に焦

点をあて、逍遙が手掛けた多くの「書」の作品を通して一人の人間としての人物像に迫る。書や和歌、画賛など、逍遙の筆の妙技を通し、逍遙が親しんだ枯淡の世界に思いを巡らせる展示となった。

●来場者数 449名



展覧会

文化企画課

早稲田スポーツミュージアム



体育各部セレクション

日時 第4期：9月25日(金)～11月24日(火)

第5期：11月26日(木)～2021年2月23日(火)

第6期：2021年3月1日(月)～6月8日(火)

会場 早稲田スポーツミュージアム

主催 早稲田大学文化企画課

「体育各部セレクション」では、体育各部44部を数部ずつ定期的に入れ替えながら紹介し、往時のユニフォームや写真のほか、トロフィーや競技道具など、その活躍ぶりがうかがえる貴重な資料を展示した。

[第4期] 剣道部・山岳部・ボクシング部・ハンドボール部・準硬式野球部・アーチェリー部
[第5期] 柔道部・スキー部・体操部・ホッケー部・自転車部・ソフトボール部
[第6期] 弓道部・スケート部・空手部・フェンシング部・パドミントン部・日本拳法部



文化事業

2020年度 展覧会・催し物



展覧会

文化企画課

早稲田スポーツミュージアム



Jリーグ開幕関連資料展示

日時 9月25日(金)～2021年7月31日(土)

会場 早稲田スポーツミュージアム

主催 早稲田大学文化企画課

協力 日本サッカーミュージアム

1993年に開幕した日本プロサッカーリーグ(略称:Jリーグ)。日本サッカーミュージアムの協力を得て、5月15日のセレモニーでチェアマンの川淵三郎氏(1961年卒)によって読み上げられた開幕宣言や、

同日に国立霞ヶ丘陸上競技場で開催されたJリーグサントリーシリーズ開幕戦(ヴェルディ川崎対横浜マリノス)で使用されたボールなどを展示した。



展覧会

文化企画課

早稲田スポーツミュージアム



堀江忠男 ベルリン五輪時使用トランク 特別展示

日時 9月25日(金)～2021年7月31日(土)

会場 早稲田スポーツミュージアム

主催 早稲田大学文化企画課

協力 日本サッカーミュージアム

堀江忠男氏(1936年卒)はア式蹴球部に所属し、在学中の1935年にサッカー日本代表に選出され、1936年に開催された第11回ベルリンオリンピックに出場した。同大会では優勝候補のひとつであったス

ウェーデンを破る「ベルリンの奇跡」に貢献した。日本サッカーミュージアムの協力を得て、ベルリンオリンピック出場の際に堀江氏が使用したトランクの特別展示を行った。



展覧会

文化企画課

早稲田スポーツミュージアム



野球部 東京六大学野球優勝記念展

日時 11月26日(木)～2021年4月6日(火)

会場 早稲田スポーツミュージアム

主催 早稲田大学文化企画課

2020年11月8日、東京六大学野球秋季リーグ最終戦となる早稲田大学対慶応義塾大学2回戦が明治神宮野球場で行われた。早稲田大学が1点ビハインドの9回表2死走者無しから3対2で逆転勝ちし、劇的な

優勝を果たした。2015年秋以来10シーズンぶりとなる46度目の優勝を記念し、パネルやトロフィー、ウィニングボールなどを展示する特別展を開催した。

文化事業

2020年度 展覧会・催し物



展覧会

文化企画課

本庄早稲田の杜ミュージアム



オセアニア民族造形美術品展 ―セピック川流域の精霊と文化―

日時 10月15日(木)～2021年1月11日(月・祝)

会場 本庄早稲田の杜ミュージアム 早稲田大学展示室

主催 文化推進部

本庄早稲田の杜ミュージアムの開館とともに、早稲田大学展示室でオセアニア民族造形美術品の公開展示を行った。このコレクションは、今泉隆平氏が収集した資料で、鶴ヶ島市から2010年に本学に寄贈された。1,000点を超える資料の中から、セ

ピック川流域の精霊の家を彩る装飾品とそこで使用される仮面や彫像を中心に展示を行った。表情豊かな精霊の姿を通じて、パプアニューギニアの精神世界や自然豊かな暮らしと文化を紹介した。

●来場者数 7,224名



展覧会

文化企画課

本庄早稲田の杜ミュージアム



世界をつなぐやきもの―陶磁器、遥かなる旅路。

日時 2021年1月26日(火)～8月29日(日)

会場 本庄早稲田の杜ミュージアム 早稲田大学展示室

主催 文化推進部

共催 會津八一記念博物館

早稲田大学は1978年から1985年にかけて、エジプトのアル＝フスタート遺跡で発掘調査を実施し、出土品の一部を本学が所蔵している。この遺跡からは龍泉窯や景德鎮窯など、中国でつくられた陶磁器が大量に出土しており、中国からはるか北アフリカまでを結んだ東西交易海路の存在を物語っている。また、會津八一記念博物館に寄贈された株式会社小野測器の初代社長を務められた小野義一郎氏が蒐集された世

界各地で作られた陶磁器類のコレクションを通して、アフリカ・西アジア・東南アジア・中国を経て、はるか日本までつながる壮大な「陶磁の道」を辿る展示とした。

今回の展示では、アル＝フスタート遺跡から出土したガラス製品や中国陶磁器と共に、本庄市・美里町・神川町など児玉地域から出土した中国陶磁器をあわせて展示し、やきものを通じて世界がつながるようすを紹介した。

●来場者数 7,754名

文化事業

2020年度 展覧会・催し物

第11回 早稲田狂言の夕べ

Museum Week 2020

2020年度 早稲田学生文化・芸術祭

早稲田文化芸術週間 2020

文化推進部が主催する以下の催し物は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020年度は開催中止となった。

第11回 早稲田狂言の夕べ	2015年に文化功労者顕彰を受けた、本学校友で人間国宝の野村万作氏、ご子息で推薦校友の野村萬斎氏をはじめとする豪華出演者による狂言公演。2010年4月より本学学生・教職員・招待校友を対象として毎年開催している。
Museum Week 2020	會津八一記念博物館、早稲田大学歴史館、早稲田スポーツミュージアムを始めとした各文化施設の魅力や、ミュージアム化が進むキャンパスの魅力を体感していただくことを目的に実施している。
2020年度 早稲田学生文化・芸術祭	早稲田学生文化・芸術祭は、「学生団体の発表機会を増やし、早稲田の学生文化・芸術を発信・創造すること」を目的に、2010年より実施。文化推進部・学生部のサポートのもと、公認学生団体・サークルの学生が主体となって公演や作品展示等を行い、秋の「早稲田祭」に並ぶ、学生が日頃の活動成果を披露する、春の一大文化イベントとして位置づけられている。
早稲田文化芸術週間 2020	早稲田文化芸術週間は本学の文化普及・社会貢献・地域振興活動を社会に発信することを目的に2010年度より開始、本学最大の文化芸術フェスティバルとなっている。毎年、大学と地域が一体となり、講演会やコンサート、ワークショップなど約40のイベントを一挙展開している。

文化事業

2020年度 展覧会・催し物

早稲田文化ラボ

日時 9月25日(金)～2021年3月31日(水)
会場 オンライン
主催 文化推進部

創立以来、大学・学生・地域が築き上げてきた早稲田の文化「早稲田文化」を広く発信し、次の世代へ継承するため、特設WEBサイト「早稲田文化ラボ」を開設。新型コロナウ

イルス感染症の影響によりイベントの中止が相次ぐ中で、早稲田の文化を集約し、また体験できるように様々なオンラインコンテンツを展開した。



イベント企画一覧

企画名
背景画像をプレゼント！ Vol.1～8
【動画公開】思い出溢れる早稲田文化が集結！
【動画公開】早稲田文化をこの一句にギュッと詰め込みました
予想外が待っている！早稲田大学ミュージアム紹介動画公開
早稲田19サークル、集結せず。ダンス動画公開！～どんな時でも心はひとつ～
【動画公開】届け、音楽の力！早稲田の底力！
謎解きに挑戦！楽しみながら文化を学ぶ「データベースワードパズル」
ワセダベアをさがせ！～360度バーチャルツアーで謎解きに挑戦～
漫画研究会 presents オンラインde似顔絵体験
【早大生 ShowTime】いち押しコンテンツ①～⑥
ワセメシ・ワセマチ Vol.1～8（インタビュー）
ワセダベアからの挑戦!! あなたは何問正解できる？（ワセラボクイズ）
早稲田から応援しよう！『おにぎりアクション』
早稲田大学 VRミュージアムツアーへようこそ！【早稲田キャンパス編】【戸山キャンパス・早稲田スポーツミュージアム編】 【本庄キャンパス・本庄早稲田の杜ミュージアム編】
東西線早稲田駅から早稲田大学までの道順（受験生ルート対応）を360度視点でご案内

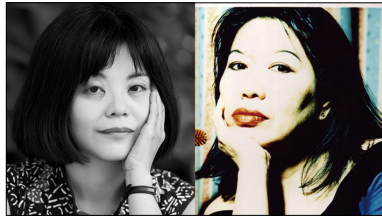
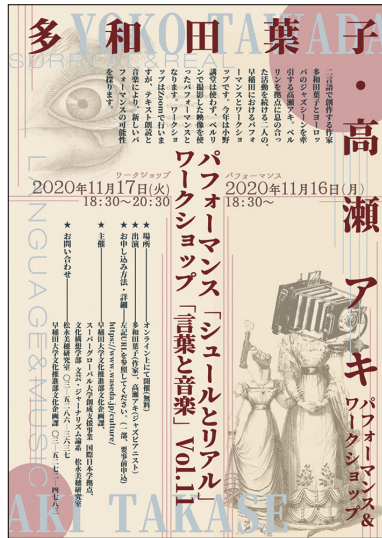
文化事業

2020年度 展覧会・催し物



講演会・シンポジウム

文化企画課



多和田葉子・高瀬アキ パフォーマンス&ワークショップ

日時 ①パフォーマンス「シュールとリアル」 11月16日(月) 18:30~12月31日

②ワークショップ「言葉と音楽」Vol.11 11月17日(火) 18:30~20:30

会場 オンライン

主催 文化推進部文化企画課

スーパーグローバル大学創成支援事業 早稲田大学国際日本学拠点

文化構想学部文芸・ジャーナリズム論系松永美穂研究室

出演 多和田葉子(作家)、高瀬アキ(ジャズピアニスト)

二言語で創作する作家多和田葉子とヨーロッパのジャズシーンを牽引する高瀬アキ。テキスト朗読と音楽により、新しいパフォーマンスの可能性を探る。

ベルリンを拠点に息の合った活動を続ける二人による本イベントは、今年で11回目。従来は、早稲田大学のキャンパスで実施したが、2020年はオンラインで開催した。

「パフォーマンス」は、ベルリンで撮影した映像を使ったパフォーマンスを、期間限定で動画配信した。今回は、「シュールとリアル」をテーマとして、メキシコの著名な画家「フリーダ・カーロ(1907~54)」の作品や生き様を題材に、ベルリンで撮影した映像作品を配信した。作家、ピアニストの二人が作品を制作していく過程を垣間見ることができる貴重な映像である。

ワークショップにはZoomWebinar形式

で開催し、早稲田大学の学部生・院生9名が発表者として参加した。「シュールとリアル」をテーマに3分以内で発表するという課題に、あらかじめ制作した映像作品の発表、またはライブで朗読パフォーマンスを披露した。ベルリン在住の多和田葉子さん・高瀬アキさんからコメントをいただくとともに、また動画作品やパフォーマンスの意図を発表学生と共有しながら、言葉と音楽とは? シュールとは何か? リアルとの違いがあるのか……。答えのないテーマに向き合い、そこから生まれた9名の個性豊かな世界が繰り広げられた。ワークショップの視聴者数は130名となり、従来のリアルな開催よりも多い参加者数であった。

●パフォーマンスビデオ視聴回数 944回

ワークショップZoomWebinar

視聴者数 130名

文化事業

総括

研究活動・教育活動

展覧会・催し物

出品・展示協力

文化事業

2020年度 出品・展示協力

【坪内博士記念演劇博物館】

期 間	展覧会名称	申請者団体名
9月12日～12月6日	公開70周年記念 映画『羅生門』展	国立映画アーカイブ（京都文化博物館へ巡回）
9月19日～11月23日	「日本の美術を貫く 炎の筆『線』（一火焰土器からまゆ毛まで）」	府中市美術館
10月3日～10月25日	東京経済大学創立120周年記念展示「東京経済大学120年と創立者大倉喜八郎」	東京経済大学
10月18日～12月13日	山里に咲いた芸—説教師 薩摩千代太夫と幻の「片瀬人形」—	飯能市立博物館
10月31日～12月6日	企画展「江戸里神楽 松本源之助 —国重要無形民俗文化財 江戸の里神楽 松本社中—」	荒川ふるさと文化館
12月12日～2021年1月11日	早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業 企画展「墨伝う思い—書を通して知る文人・坪内逍遙」	美濃加茂市民ミュージアム (早稲田大学へ巡回)
2021年1月1日～12月15日	「宝塚歌劇の殿堂」	阪急電鉄株式会社
2021年1月18日～2月22日	早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業 企画展「墨伝う思い—書を通して知る文人・坪内逍遙」	早稲田大学文化推進部 文化企画課 (美濃加茂市民ミュージアムから巡回)
2021年2月6日～3月14日	公開70周年記念 映画『羅生門』展	京都文化博物館 (国立映画アーカイブから巡回)

【會津八一記念博物館】

期 間	展覧会名称	申請者団体名
4月1日～2021年3月31日	日比谷図書文化館 常設展示	日比谷図書文化館
4月11日～6月23日	ルオーと日本展 響き合う芸術と魂—交流の100年	パナソニック汐留美術館
4月11日～11月29日	白馬のゆくえ：小林萬吾とたどる日本洋画の50年	香川県立ミュージアム・久留米市美術館・高梁市成羽美術館
6月2日～11月8日	奇才 —江戸絵画の冒険者たち—	江戸東京博物館・山口県立美術館・あべのハルカス美術館
7月18日～9月13日	生誕100年 ロボットと芸術～越境するヒューマノイド	苫小牧市美術博物館
9月19日～11月23日	日本の美術を貫く 炎の筆〈線〉	府中市美術館
10月10日～11月29日	相模川流域のみほとけ	神奈川県立歴史博物館
2021年2月20日～4月11日	没後70年「南薫造」展	東京ステーションギャラリー
2021年3月13日～5月9日	与謝蕪村「ごこちない」を芸術にした画家	府中市美術館

【文化企画課】

期 間	展覧会名称	申請者団体名
11月21日～2021年1月17日、 2021年1月24日～2021年3月13日、 2021年3月20日～2021年5月23日	デビュー50周年記念 諸星大二郎展 異界への扉	北海道立近代美術館、イルフ童画館、北九州市漫画ミュージアム

地域交流事業

文化推進部は、本学の優れた文化資源を公開し各地の教育研究活動に役立て、また本学が有する人的資源を地域社会の教育や文化推進に活用し社会貢献するため、さまざまな文化事業を展開している。本学のキャンパスが所在する地域や包括協定・文化交流協定を締結した地域

で、大学が所蔵する貴重な文化財を巡回展覧会により公開している。また、地域の行政・企業・住民と連携して、本学の学生・教職員に校友も加わり、演劇・映画・映像・音楽・文学・芸術・科学・スポーツなどの多様なイベントを協働で実施している。

1. 福島県白河市

福島県白河市と早稲田大学の文化振興ならびに早稲田文化を多くの地域に広げたいという意図のもと、2014年度より開始した地域交流である。2014年度・2015年度は本学公認サークルStreet Corner Symphony、2016年度・2017年度は早稲田大学グリークラブ、2018年度・2019年度は「早稲田大学混声合唱団」「津軽三味線愛好会三津巴」の二団体の協力を得て合同コンサートを行なった。

■白河市・早稲田大学交流事業

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止となった。

2. 長野県軽井沢町

人的交流により本学の魅力を理解してもらうことを目的として、1998年から「おもしろ科学実験教室」を実施している。地域の小学生を対象に、実験や工作を自ら体験することを通じて科学・技術に対する興味や関心を高める機会を提供。恵まれた自然環境や広大で豊富な運動施設を有する軽井沢セミナーハウスを会場に、理工学術院教職員の指導のもと、親子がふれあいながら科学の不思議・楽しさを学ぶ機会となっている。

■軽井沢町・早稲田大学交流事業 「第23回おもしろ科学実験教室」

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止となった。

3. 佐賀県佐賀市

早稲田大学は2006年12月19日、大隈重信の出身地である佐賀県と「連携協同による基本協定」を締結し、さまざまな教育・研究の共同事業を展開している。また、佐賀市には大隈侯生誕125周年を記念して開館した大隈重信記念館と、国の指定史跡である大隈重信旧家（生家）がある。大隈重信記念館とは、毎年交流を行っており、毎年開催される大隈祭に合わせて、年間の企画展示報告・今後の展示等の予定の情報共有を行っている。また、大学史資料センターおよび中央図書館等から大隈重信記念館で実施される企画展への資料提供なども行っている。

■令和2年度 大隈祭

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止となった。

4. 岐阜県加茂郡八百津町

杉原千畝出身地である岐阜県八百津町と早稲田大学が、文化振興の交流ならびに早稲田文化を多くの地域に広げたいという意図のもと、2016年度から実施された地域交流である。これまで早稲田大学グリークラブを派遣し、コンサート前日には出演学生が町内の2つの中学校の生徒と歌の交流を行うほか、杉原千畝記念館にも訪問し、見識を深めている。

■岐阜県八百津町交流事業「ワセダ・ヒューマニティ・コンサート'20」

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止となった。

地域交流事業

5. 東京都新宿区

早稲田大学のキャンパス所在地である、東京都新宿区との地域交流事業として、以下の事業を行っている。

(1) 催し物の後援・協力（文化推進部）

新宿区との地域交流事業として、毎年以下の催し物の後援・協力を行っているが、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止となった。

■令和2年度 新宿区夏目漱石コンクール

読書感想文コンクール「わたしの漱石、わたしの一行」（中学生部門・高校生部門）

■令和2年度 新宿区夏目漱石コンクール

絵画コンクール「どんな夢を見た？あなたの『夢十夜』」（小学生部門）

(2) 令和2年度 文化庁補助事業 新宿から発信する「国際演劇都市 TOKYO」プロジェクト実行委員会（演劇博物館）

2019年度に引き続き、今年度も文化庁「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に採択されたことを受け、新宿区の文化観光課や教育委員会、公益財団法人新宿未来創造財団などと連携し、コロナ禍においても新宿を中心とした地域文化・観光の振興、人材育成、国際交流の推進や演劇博物館の多言語化などを目指してさまざまな活動を実施した。

企画名称	期間	会場	講師・出演者など
展示解説パネルおよびホームページの展覧会・イベント紹介の多言語化	9月28日（月）～2021年3月31日（水）	演劇博物館	
無声映画上映会「エンバクシネマ」	10月9日（金）	小野記念講堂	出演：澤登翠（活動写真弁士）、山城秀之（活動写真弁士）、山内菜々子（活動写真弁士）、柳下美恵（ピアノ）
出張体験教室〈常磐津〉	11月17日（火）	都立町田の丘学園	講師：常磐津和英太夫（太夫）、常磐津菊与志郎（三味線）
ゲストトーク付き上映会イベント「誰のためにつくるのか〜『虹色の朝が来るまで』上映会」	11月23日（月）	小野記念講堂	トークゲスト：今井ミカ（映画監督）、久保豊（金沢大学准教授）
出張体験教室〈狂言〉	12月2日（水） 12月23日（水） 2021年1月22日（金）（※）	都立町田の丘学園 都立大泉特別支援学校 都立花畑学園（※）	講師：善竹十郎、善竹大二郎（狂言師） （※）新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

6. 東京都中野区

東京都中野区との地域交流事業として、2010年より早稲田大学交響楽団による「Maple Concert」（メープルコンサート）を開催している。

■東京都中野区・早稲田大学文化交流事業

早稲田大学交響楽団「Maple Concert 2020」

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止となった。

7. 静岡県熱海市

熱海市、熱海稲門会、演劇博物館は、毎年坪内逍遙顕彰事業の一環として、「逍遙忌記念祭」を開催し、記念講演会を行っている。また記念祭に合わせ、熱海市教育委員会・熱海稲門会・美濃加茂市・演劇博物館などの逍遙ゆかりの機関・施設が参加する意見交換会を行っている。熱海は坪内逍遙終焉の地で、終の棲家となった双柿舎や墓所の海蔵寺があるほか、逍遙自ら作詞した市歌や、創立に尽力したとされる市立図書館など、逍遙の足跡が多く残る。

■第50回逍遙忌記念祭

日 時：2021年2月28日（日）10：00～10：20

会 場：熱海市海蔵寺 坪内逍遙墓前

主 催：熱海市、熱海稲門会、演劇博物館

内 容：お慕いのことば（熱海市長、熱海稲門会会長、演劇博物館館長）

献花（熱海市長、熱海稲門会会長、演劇博物館館長）

読経（海蔵寺住職：熱海稲門会主催）

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため規模を縮小して実施

地域交流事業

8. 千葉県鴨川市

鴨川市と本学の間で「鴨川市太海多目的公益用地に関する基本合意書」（セミナーハウスの誘致）の締結をしたことを契機に、鴨川市民に本学を理解していただくため、1998年より開始した交流事業。安房地域の小学生を対象とした理工学術院教職員の指導による「おもしろ科学実験教室」の開催を中心に、講演会や本学キャンパスツアーなどさまざまな事業を実施している。

■鴨川市・早稲田大学交流事業

「第23回おもしろ科学実験教室」

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止となった。

9. 岐阜県美濃加茂市

2007年4月、文化推進部発足を機に、本学は坪内逍遙と津田左右吉の生誕地である美濃加茂市と「文化交流協定」を締結した。美濃加茂市は逍遙の功績を称え市民文化の向上を図るため、1994年に「坪内逍遙大賞」を創設し、演劇分野において坪内逍遙の功績を再認識させるような優秀な活動・著作を表彰している。本学は文化交流協定の一環として2007年に「早稲田大学坪内逍遙大賞」（48ページ参照）を制定し、互いに隔年で授賞することとなった。このほか、以下のさまざまな交流事業を実施している。

（1）学生演劇公演（文化推進部）

学内公募で選ばれた本学の学生劇団が、みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアムに約1週間合宿し野外公演を行う企画で、2008年より毎年9月に実施。滞在中に県立加茂高等学校などでの演劇ワークショップ、坪内逍遙博士顕彰会との交流、坪内逍遙に関する学習なども行ってきた。

■第13回美濃加茂市・早稲田大学文化交流事業 学生演劇公演

早稲田大学 Seiren Musical Project

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止となった。

（2）「坪内逍遙大賞受賞者記念事業」協力（文化推進部、演劇博物館）

■第18回坪内逍遙大賞授与式

日時：2021年3月22日（月）13：30～14：00

会場：大隈会館2階 N201、202会議室

内容：市長挨拶（美濃加茂市長）

委員長授賞経緯（岡室美奈子選考委員長・演劇博物館館長）

賞状・レリーフ・賞金目録・花束贈呈

受賞者挨拶 白石加代子（俳優）

主催：美濃加茂市

協力：文化推進部、演劇博物館、坪内逍遙博士顕彰会

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため規模を縮小して実施

10. 埼玉県本庄市

本学本庄キャンパスも設置されている埼玉県本庄市にて定期的に開催している「生涯学習推進大会」内において、2018年度より、本学学生団体による公演を実施することとなった。

■Big Band Jazz Special Live “早稲田大学ハイソサエティ・オーケストラ”

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止となった。

1. 早稲田大学坪内逍遙大賞

2007年に迎えた創立125周年を記念して、近代日本の文芸・文化の創造者ともいべき坪内逍遙の偉業を顕彰すると同時に、その精神を広く未来の文化の新たな創出につなげるという願いから、文芸をはじめとする文化芸術活動において著しい貢献をなした個人（もしくは団体）を顕彰すべく、「早稲田大学坪内逍遙大賞」を創設した。また、これからの文化の担い手である若い才能を応援すべく、奨励賞を併せて創設した。あまたある文芸・文化関係の賞の中で、広く開かれた独自の意義を担う賞を目指していきたいと考えている。文芸・文化・芸術活動の中から、隔年で「大賞」1名、「奨励賞」1名を選んで顕彰する。副賞として記念のメダルと大賞100万円、奨励賞50万円を贈呈している。

早稲田大学は、文化推進部が2007年4月に発足したのを機に、美濃加茂市との間で同年春に文化交流協定を締結した。この協定の精神には大学の地域連携の理念がある。具体的に

は早稲田大学と美濃加茂市とが、隔年で独自の選考基準に基づきつつも坪内逍遙大賞を選考し、結果的に毎年の授賞を実現しようというものである。美濃加茂市坪内逍遙大賞が演劇人の顕彰であるのに対して、早稲田大学坪内逍遙大賞は坪内逍遙の業績に鑑み、文芸をはじめとする文化全般に貢献した人々を顕彰することを目指している。

過去の受賞者

受賞年度	坪内逍遙大賞	奨励賞
2007（第1回）	村上 春樹	川上未映子
2009（第2回）	多和田葉子	木内 昇
2011（第3回）	野田 秀樹	円城 塔
2013（第4回）	小川 洋子	小野 正嗣、山田 航
2015（第5回）	伊藤比呂美	福永 信
2017（第6回）	柴田 元幸	アーサー・ビナード
2019（第7回）	是枝 裕和	福嶋 亮大

2. 若山牧水青春短歌大賞（宮崎県延岡市）

宮崎県出身の歌人、若山牧水（1885～1928年）を顕彰する短歌コンクール。若山は旧制延岡中学を経て、早稲田大学英文科卒（1908年）。同級生の北原白秋（射水）、中林蘇水と親交を厚くし、「早稲田の三水」と呼ばれる。

毎年、全都道府県から広く短歌を募集し、短歌大賞・優秀

賞などを決定している。早稲田大学は「審査員特別賞 早稲田大学賞」として、3名を顕彰している。2020年度は3名を表彰した。

※式典自体は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となった。

3. 梓立祭作文・絵画コンクール（高知県宿毛市）

梓立祭（しりつさい）は、「学苑創立の母」といわれる小野梓（1852～1886年）の誕生日2月20日（新暦の3月10日）を記念日として祝う祭典である。小野梓を顕彰しその研究とおして、教育文化・芸術の向上を図りながら、宿毛の偉人たちも順次顕彰し、過去の偉人達の足跡に学びながら青少年の健全育成や宿毛の文化・教育の発展に寄与することを目的と

する。

梓立祭では、作文・絵画コンクールを実施し、最優秀賞・優秀賞・奨励賞として、小学生、中学生各1名を顕彰している。2020年度は9名を表彰した。

※式典自体は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となった。

4. 旺文社主催「全国学芸サイエンスコンクール」

旺文社が、「全国の小・中・高校生の研究・アートおよび文芸の振興奨励と、青少年の個性の育成」を目的として、1957年から主催している顕彰事業である。

このコンクールでは、幅広く多様な分野に部門を設け、児童・生徒が自身の得意分野の作品で応募でき、毎年全国から多数の応募がある。優秀作品には、内閣総理大臣賞・文部科

学大臣賞・環境大臣賞などが授与される。早稲田大学は「早稲田大学総長賞」として、文芸Ⅰ（小説・詩部門）の最優秀者を表彰している。2020年度は早稲田大学総長賞を1名表彰した。

※式典自体は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となった。

5. 小川未明文学賞（新潟県上越市）

上越市が生んだ日本児童文学の父、小川未明（1882～1961年）の作品および業績を広く市内外に紹介するとともに、子供の感性や想像力を育むといった理念で設立された顕彰事業。未明は早稲田大学英文科在学中より執筆活動を開始し、1905

年に卒業。生涯で1,000点以上の作品を世に送り出し、「日本のアンデルセン」として読者に親しまれている。小川未明文学賞は、小学生を対象にした創作児童文学に与えられる文学賞である。文化推進部は、後援顕彰事業を行っている。

学術研究書出版制度

1. 学術情報発信の基盤としての出版事業

2008年度からスタートした学術研究書出版制度は、「大学の研究教育の内容やその水準を直接に体现する手段のひとつであり、当該大学にとって重要な使命を担う」と位置付け、その充実こそが、大学全体のアカデミック・ステイタスの維持・向上に直結するという考えを示してきた。これまで研究教育

活動や多様な文化事業の成果を効果的に発信するために、早稲田大学と早稲田大学出版部は連携してきた。

出版事業が学術情報発信の基盤をなすという認識から、大学が直接これに関わって、自らの使命を果たすことが、学術研究書出版制度の趣旨であるといえる。

2. 学術研究書出版制度の見直しについて

学術研究書出版制度について、2015年度に以下の見直しを行い、新たな制度のもと、2020年度に7冊の学術研究書を発行した。

(1) 2種類の学術研究書シリーズ — 学術叢書とエウプラクシス叢書

「早稲田大学学術叢書」は、本学のアカデミック・ステイタスの維持・向上を目的とし、良質な学術研究書の出版機会を引き続き提供する。

また、以前の「早稲田大学モノグラフ」に替わって、新鋭研究者のための叢書「早稲田大学エウプラクシス叢書」（「エウプラクシス」は、ギリシャ語で「成功を収めた実績」の意味）を発刊し、出版経験の少ない研究者に対して出版機会を提供するため、出版部の専門の編集者が入稿から刊行まで、原稿の完成に向けて支援する体制を作る。いずれも上製本のA5判とし、ページ数、字数などの詳細は募集要項に記載する。

(2) 審査のプロセスと採否の最終決定について

「書面審査」では、学内外の複数の専門審査員に、原稿と提出書類に基づく審査および評価を行う。専門審査員は、応募分野の専門研究者を中心に研究者データベースなどから抽出し選定する。学位論文をベースにしている場合は、指導教員などの関係者は除かれ、公正性を維持する。「書面審査」による評価点に、出版物としての市場性の観点から出版部編集者の意見を加え、研究推進担当副総長および文化推進担当理事が最終決定を行う。

(3) 出版企画委員会の役割

委員会は、文化推進を担当する理事からの諮問を受けて、レベルの高い学術文化情報の発信、国際社会における本学のアカデミック・ステイタスの向上を目指して、この制度における学術書と学内外の優れた学術研究成果の応募促進のために審議する。

(4) 応募資格の拡大と募集要項などの見直し

上記の改善に伴い、「早稲田大学学術叢書」および「早稲田大学エウプラクシス叢書」の応募資格を拡大し、募集要項、審査要領などの内容を見直す（募集要項の詳細については、ウェブサイト「早稲田文化」の学術出版支援の欄を参照）。

学術叢書刊行一覧（2009年3月～2020年3月）

刊行No.	書名	刊行No.	書名
学術叢書1	濱川栄『中国古代の社会と黄河』	学術叢書20	石濱裕美子『清朝とチベット仏教』
学術叢書2	真辺将之『東京専門学校の研究』	学術叢書21	黒崎剛『ヘーゲル・未完の弁証法』
学術叢書3	中垣啓『命題的推論の理論』	学術叢書22	片木淳『日独比較研究 市町村合併』
学術叢書4	堀真清『一亡命者の記録』	学術叢書23	Rieko Suzuki『Negotiating History』
学術叢書5	藤井千春『ジョン・デューイの経験主義哲学における思考論』	学術叢書24	杵渕博樹『人類は原子力で滅亡した』
学術叢書6	鳥越皓之『霞ヶ浦の環境と水辺の暮らし』	学術叢書25	奥野武志『兵式体操成立史の研究』
学術叢書7	山内晴子『朝河貫一論』	学術叢書26	井黒忍『分水と支配』
学術叢書8	金孝淑『源氏物語の言葉と異国』	学術叢書27	岩佐壮四郎『島村抱月の文藝批評と美学理論』
学術叢書9	鈴木勘一郎『経営変革と組織ダイナミズム』	学術叢書28	高橋弘幸『企業競争力と人材技能』
学術叢書10	佐藤洋一『帝政期のウラジオストク』	学術叢書29	高橋勝幸『アジア冷戦に挑んだ平和運動』
学術叢書11	五十嵐誠一『民主化と市民社会の新地平』	学術叢書30	小松志朗『人道的介入』
学術叢書12	内田悦生・下田一太（コラム執筆）『石が語るアンコール遺跡』	学術叢書31	渡邊将智『後漢政治制度の研究』
学術叢書13	青木雅浩『モンゴル近現代史研究』	学術叢書32	石井裕晶『制度変革の政治経済過程』
学術叢書14	飯山知保『金元時代の華北社会と科挙制度』	学術叢書33	森佳子『オフエンバックと大衆芸術』
学術叢書15	上野和昭『平曲譜本による近世京都アクセントの史的研究』	学術叢書34	北山夕華『英国のシティズンシップ教育』
学術叢書16	Ayako Yoshino『Pageant Fever』	学術叢書35	Yoshio Ueno『An Automodular View of English Grammar』
学術叢書17	河西宏祐『全契約社員の本質と正社員化』	学術叢書36	森祐司『地域銀行の経営行動』
学術叢書18	市川薫『対話のことばの科学』	学術叢書37	竹中晃二『アクティブ・ライフスタイルの構築』
学術叢書19	伊藤りさ『人形浄瑠璃のドラマツルギー』	学術叢書38	渡邊詞男『格差社会の住宅政策』

学術研究書出版制度

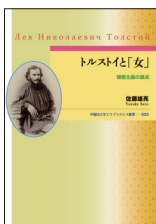
刊行No.	書名	刊行No.	書名
学術叢書39	岩田圭一『アリストテレスの存在論』	学術叢書48	湯浅有希子『柔道整復師—接骨術の西洋医学化と国家資格への歩み』
学術叢書40	藤岡典夫『環境リスク管理の法原則』	学術叢書49	谷口建速『長沙走馬楼呉簡の研究—倉庫関連簿よりみる孫呉政権の地方財政』
学術叢書41	陳丹舟『中国独占禁止法—法体系とカルテル規制の研究』	学術叢書50	上野義雄『現代日本語の文法構造—形態論編』
学術叢書42	上野義雄『An Automodular View of Ellipsis』	学術叢書51	上野義雄『現代日本語の文法構造—統語論編』
学術叢書43	小松寛『日本復帰と反復帰—戦後沖縄ナショナリズムの展開』	学術叢書52	前田徹『初期メソポタミア史の研究』
学術叢書44	工藤龍太『近代武道・合気道の形成—「合気」の技術と思想』	学術叢書53	新保敦子『日本占領下の中国ムスリム—華北および蒙疆における民族政策と女子教育』
学術叢書45	牟倫海『戦後日本の対外文化政策—1952年から72年における再編成の模索』	学術叢書54	柏雅之他5名『地域再生の論理と主体形成—農業・農村の新たな挑戦』
学術叢書46	橋身智志『前漢国家構造の研究』	学術叢書55	上野義雄『意味の文法』
学術叢書47	李軍『日中漢字文化をいかにした漢字・語彙指導法—「覚える」から「考える」へ』		

エウブラクシス叢書刊行一覧（2016年4月～2020年3月）

刊行No.	書名
エウブラクシス叢書1	島崎崇史『ヘルスコミュニケーション—健康行動を習慣化させるための支援』
エウブラクシス叢書2	酒井雅子『クリティカル・シンキング教育—探究型の思考力と態度を育む』
エウブラクシス叢書3	坂口可奈『シンガポールの奇跡—発展の秘訣と新たな課題』
エウブラクシス叢書4	楢山満照『蜀の美術—鏡と石造遺物にみる後漢期の四川文化』
エウブラクシス叢書5	飯尾美沙『小児気管支喘息の患者教育—子どもと家族への健康心理学的アプローチ』
エウブラクシス叢書6	鄭榮蘭『日韓文化交流の現代史—グローバル化時代の文化政策：韓流と日流』
エウブラクシス叢書7	陳雅賽『中国メディアの変容—ネット社会化が迫る報道の変革』
エウブラクシス叢書8	森下之博『中国賃金決定法の構造—社会主義秩序と市場経済秩序の交錯』
エウブラクシス叢書9	野口真広『植民地台湾の自治—自律的空間への意志』
エウブラクシス叢書10	Petra Karlová『Japan's Pre-War Perspective of Southeast Asia; Focusing on Ethnologist Matsumoto Nobuhiro's Works During 1919-1945』
エウブラクシス叢書11	水野忠尚『プレデール立地論と地政学—経済のグローバル化と国家の限界』
エウブラクシス叢書12	柳川響『藤原頼長—「悪左府」の学問と言説』
エウブラクシス叢書13	森達也『思想の政治学—アイザイア・バーリン研究』
エウブラクシス叢書14	李慧敏『日中電力産業の規制改革—競争政策からみた自由化への歩み』
エウブラクシス叢書15	鄭東俊『古代東アジアにおける法制度受容の研究—中国王朝と朝鮮三国の影響関係を中心に』
エウブラクシス叢書16	林佳恵『六朝江南道教の研究—陸修静の靈宝経観と古靈宝経』
エウブラクシス叢書17	酒井貴広『犬神考—迷信に対する人々の意識の変容』
エウブラクシス叢書18	張碧恵『中華民国と文物—国家建設に果たした近代文物事業の役割』
エウブラクシス叢書19	金小英『平安時代の笑いと日本文化—『土佐日記』『竹取物語』『源氏物語』を中心に』
エウブラクシス叢書20	山本孝司『アメリカ進歩主義教育の源流—ブロンソン・オルコット思想研究』
エウブラクシス叢書21	山本幸正『松本清張が「砂の器」を書くまで—ベストセラーと新聞小説の一九五〇年代』

エウブラクシス叢書刊行一覧（2020年4月～2021年3月）

刊行No.	書名
エウブラクシス叢書22	中野千野『複数言語環境で生きる子どものことば育て—「まなざし」に注目した実践』
エウブラクシス叢書23	佐藤雄亮『トルストイと「女」—博愛主義の原点』
エウブラクシス叢書24	藤原整『ブータンの情報社会—工業化なき情報化のゆくえ』
エウブラクシス叢書25	岩崎淳『グローバル化が変える国際基準—検証・G20とバーゼルIII』
エウブラクシス叢書26	寺崎新一郎『多文化社会の消費者認知構造—グローバル化とカンントリー・バイアス』
エウブラクシス叢書27	加藤一郎『倭王権の考古学—古墳出土品にみる社会変化』
エウブラクシス叢書28	松本剛次『21世紀型能力と日本語教育—批判的日本語教師研修モデルの提案』

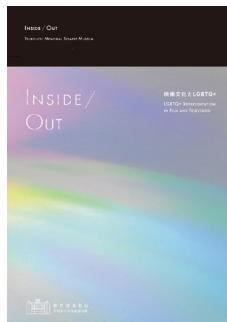


文化推進部の各機関では、所蔵資料の目録、展覧会の図録、研究紀要などを定期的に発行している。2020年度に刊行されたものは以下の通りである。なお、価格は2021年3月31日現在のものである。

【演劇博物館】

(1) 展覧会図録

「Inside/Out ―映像文化とLGBTQ+」



発行：2020年9月28日
A5判 124ページ
価格：1,500円（税込）

2010年代には、性的マイノリティの生きた経験を描く映画作品やテレビドラマが「LGBTブーム」を契機に次々と製作・公開され、セクシュアリティやジェンダーの「普通」を作り出す権力構造について考え、問う機会が増えた。これらの作品が誕生するに至るまで、日本の映像文化はどのような軌跡を歩んできたのか。企画展関連図録は、戦後から2020年代までの映像作品や映画祭に関する図版に加え、歴史・社会言説・表象・実践に関する充実した論考を掲載している。本書が示す様々な視点から、来場者・読者がそれぞれの視点を育み、過去から現在、現在から未来への歴史を繋ぎ合わせていただければ幸いである。

(2) 演劇博物館報

エンパクブック 117号



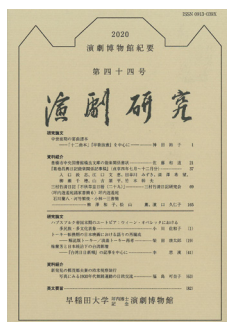
発行：2021年3月31日
B5判 76ページ
価格：700円（税込）

新型コロナウイルス感染症によって世界が未曾有の危機に襲われた2020年度のenpaku bookの特集は、「コロナ禍と演劇博物館」。この特集では、コロナ禍によって上演禁止・延期となった公演チラシのオンライン展示「失われた公演——コロナ禍と演劇の記録／記憶」やコロナ禍の現場支援から生まれた舞台映像アーカイブ「Japan Digital Theatre Archives (JDTA)」、そしてこの難局下の演劇博物館の活動記録などを詳細にご紹介。表紙は、<失われた>公演のチラシ群を背景にするオンライン展示「失われた公演」のメインビジュアルを使用した。

その他、企画展「Inside/Out——映像文化とLGBTQ+」と特別展「競演！『三国志』の風雲児たち——日本・中国・台湾の華麗なる舞台」の報告やレビューとともに、2020年3月に逝去された別役実氏に関する追悼記事や寄贈資料、2021年度の関連展示紹介なども掲載。

(3) 紀要

演劇研究 第四十四号



発行：2021年3月23日
A5判 297ページ
無料

研究論文

中世前期の宴曲譜本
——「十二曲本」『早歌抜書』を中心に—— 神田裕子

資料紹介

豊橋市中央図書館橋良文庫の能楽関係書状 佐藤 和道
『葛巻昌興日記能楽関係記事稿』（貞享四年七月～十二月分）
入口敦志、江口文恵、田草川みずき、深澤希望、柳瀬千穂、
山吉頌平、竹本幹夫
三村竹清日記「不秋草堂日曆（二十九）」 三村竹清日記研究会
〈坪内逍遙宛諸家書簡6〉坪内逍遙宛 石川蘭八・河竹繁俊・
小林一三書簡
柳澤和子、松山 薫、濱口久仁子

研究論文

ハプスブルク帝国末期のユートピア：ウィーン・オペレッタにおける

多民族・多文化表象 小川 佐和子
トーキー転換期の日本映画における語りの再編成
——解説版トーキー／浪曲トーキー再考 柴田 康太郎
梅蘭芳と日本統治下の台湾劇場
——『台湾日日新報』の記事を中心に 李 思漢

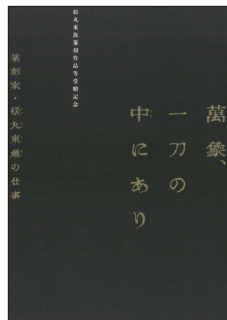
資料紹介

新発見の模茂都夫妻の欧米視察旅行
写真にみる1930年代舞踊運動の日欧交流 福島可奈子
英文要旨

【會津八一記念博物館】

(1) 松丸東魚篆刻作品等受贈記念

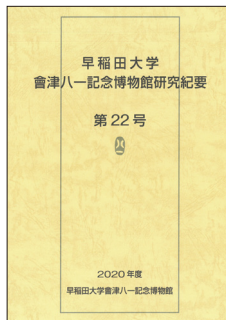
萬象、一刀の中にあり ——篆刻家・松丸東魚の仕事



発行：2021年3月1日
A4判 112ページ
価格：1,500円（税込）

(2) 早稲田大学

會津八一記念博物館 研究紀要 第22号



発行：2021年3月25日
A4判 97ページ
価格：1,000円（税込）

【巻頭言】

2020年度の會津八一記念博物館—コロナ禍下での活動（肥田路美）

【論文】

小泉斐筆『盆景石画図』と郡山の雅友たち（山田麻里亜）

【研究ノート】

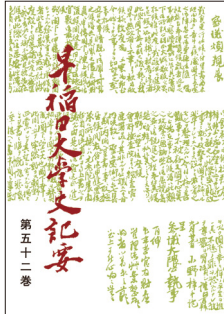
コレクター寺田小太郎とそのコレクション、および早稲田大学會津八一記念博物館の寺田小太郎コレクションについて（玉井貴子）
新型コロナウイルス感染症流行と大学博物館（太田小雪）
富岡重憲コレクションの古代エジプト資料、葬送用櫃について（福田莉紗）

【資料紹介】

富岡重憲コレクション『大般若經』巻第270（東大寺八幡經）について（下野玲子）
木活字「東魚文版」について（棕橋彩香）
日比義也コレクション追加寄贈資料について（山田麻里亜）

【大学史資料センター】

(1) 早稲田大学史記要第五十二巻



論文（廣木尚「日本歴史地理学会と吉田東伍上」、佐川享平「戦前期の早稲田大学における鉱山実習とキャリア形成」、展示等記録、早稲田大学百五十年史、大学史資料センター彙報など収録。

発行：2021年3月31日
B5判 232ページ
非売品

【文化企画課】

(1) キャンパスがミュージアム

vol.1 《早稲田キャンパス編》



発行：2015年7月31日
A5判 24ページ
価格：200円（税込）
改訂版。初版は2014年4月6日

(2) キャンパスがミュージアム

vol.2 《大隈庭園編》



発行：2015年7月31日
A5判 13ページ
価格：200円（税込）
改訂版。初版は2014年4月6日

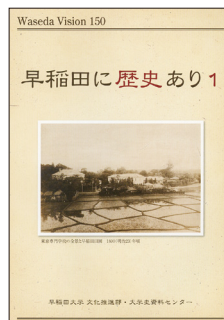
(3) キャンパスがミュージアム

vol.3 《藪野 健の芸術》

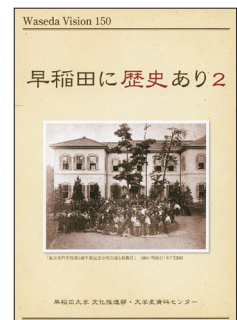


発行：2015年7月31日
A5判 22ページ
価格：200円（税込）
改訂版。初版は2014年6月20日

(4) 早稲田に歴史あり1 (5) 早稲田に歴史あり2

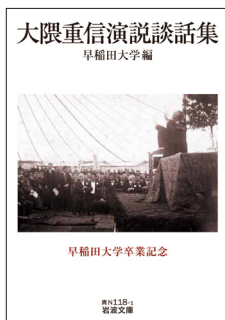


発行：2015年4月6日
A5判 26ページ
価格：200円（税込）



発行：2015年4月6日
A5判 26ページ
価格：200円（税込）

(6) 大隈重信演説談話集



発行：2016年3月16日
A6判 509ページ

岩波書店より刊行。大隈重信の思想が日本の発展にいかに関与を与えたかを理解し、卒業後の社会生活においても役立てることができるようにとの意向から、記念会堂（戸山キャンパス）建替えにより全体卒業式を実施できない2016年3月より3年間、学部を卒業する全学生を対象に配付することとした。なお、配布に際しては早稲田大学校友会の支援を得ている。

(7) 大隈重信自叙伝



発行：2018年3月16日
A6判 528ページ

(6)の演説談話集と同じく岩波書店より刊行。演説談話集が、老境の大隈が若い世代に語ったものが、日本にどう影響を与えたかを示そうとしたのに対し、本書は、主に大隈の回顧談資料から自伝的な内容をまとめ、大隈自身の成長と活躍の過程を、自叙伝の形式にまとめようとしたものである。なお、両書を美装ケースに収めた「大隈重信選集」も早稲田大学歴史館内で販売した。

2020年度 オリジナルグッズ

早稲田大学では、多くのオリジナルグッズを制作・販売している。ここでは、特に文化推進部の各機関が2020年度に制作・販売したミュージアムグッズについて記録する。なお、価格は2021年3月31日現在のものである。

【演劇博物館】

(1) 卓上カレンダー2021



本文用紙12枚、裏表紙、台紙、帯
W10cm×H21cm×D7cm（使用時）
500円（税込）
※好評につき完売

(2) グリーティングカード2021



表面



裏面

専用封筒、中紙（挨拶状）付き
表紙の錦絵に関する解説付（日本語・英語）
W21cm×H11cm（二つ折り時） 200円（税込）

(3) 新富座妖怪引幕 マスキングテープ



W3cm×H10m
500円（税込）

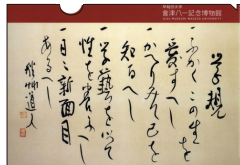
(4) 藪野健画クリアファイル 快い初夏の風の日



素材：プラスチック
W22cm×H31cm 200円（税込）

【會津八一記念博物館】

(1) クリアファイル



2種類（「明暗」「学規」）
A4サイズ 200円（税込）

(2) 一筆箋



300円（税込）

(3) ポストカード



30種類 ハガキサイズ
100円（税込）

(4) クリアファイル



2種類（「蛤蜊観音図」「布袋すたすた坊主」）
A5サイズ 250円（税込）

(5) ポストカード



3種類 円形
150円（税込）

2020 年度 オリジナルグッズ

【文化企画課】

(1) カレンダー



A3判 壁掛け
500円 (税込)

(2) クリアファイル



A4判
210円 (税込)

(3) ポストカード



全13種類 100円 (税込)

(5) ミニメモパッド



1冊30枚 W7.5cm×H7.5cm
150円 (税込)

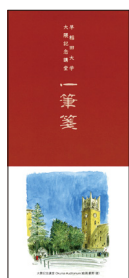
(4) ミニクリアファイル



W11.5cm×H16cm
180円 (税込)

《藪野健 大隈講堂 絵画シリーズ》

(6) 大隈講堂 一筆箋



1冊40枚 410円 (税込)

(7) 大隈講堂 ポストカード



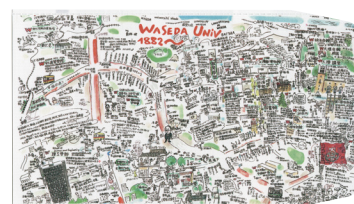
100円 (税込)

(8) 「集り散じて」 ポストカード



100円 (税込)

(9) ブックカバー (藪野健 WASEDA MAP)



300円 (税込)

2020年度 文化広報

文化推進部の広報活動として、定期的に掲載しているものを紹介する。以下のほか、文化推進部では演劇

博物館、會津博物館がイベント案内を中心としたメールニュースを発行している。

1. Waseda Online (ワセダオンライン) (<https://yab.yomiuri.co.jp/adv/wol>)

毎月掲載。2008年5月から、Yomiuri Online（読売新聞社、インターネット版）ワセダオンラインとして掲載。早稲田大学のニュース、研究力などの分野に分かれており、その中の「文

化」の欄で記事を掲載している。日本語で掲載された後、翌週からは英語訳でも掲載される。

年 月 日	記 事 題 名	執 筆 者
6月17日	演劇博物館秋季企画展「Inside/Out—映像文化とLGBTQ+」開催にあたって	久保 豊（早稲田大学坪内博士記念演劇博物館助教）
2021年3月18日	大学ミュージアムを知的・文化的情報発信の拠点に	Chang Boye（早稲田大学文化推進部文化企画課学芸員）

2. メールニュース（文化企画課）

発行号数	発行日	主 な 記 事
106	4月7日	・早稲田大学のミュージアム 全館休館を2020年5月10日（日）まで延長 ・「Museum Week」、「早稲田学生文化・芸術祭」開催中止
107	5月1日	・ご自宅で楽しめるコンテンツを続々配信中 ・早稲田大学のミュージアム 全館休館の期間延長について ・「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急支援金」へのご支援のお願い ・早稲田文化募金のご案内 ・早稲田文化 Facebook、Twitter、Instagram、Youtube のご紹介
108	6月5日	・ご自宅で楽しめるコンテンツを続々配信中 ・早稲田大学のミュージアム 全館休館について ・「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急支援金」へのご支援のお願い ・「早稲田文化募金」のご案内 ・早稲田文化 Facebook、Twitter、Instagram、Youtube のご紹介
109	8月18日	・10月15日（木）開館 本庄早稲田の杜ミュージアム ・ご自宅で楽しめるコンテンツを続々配信中 ・早稲田文化募金のご案内 ・早稲田文化 Facebook、Twitter、Instagram、Youtube のご紹介
110	9月25日	・特設 WEB サイト「早稲田文化ラボ」グランドオープン ・ワセダベアをさがせ！【早稲田文化ラボ】 ・復刻！データベースワードパズル【早稲田文化ラボ】 ・背景画像プレゼント！Vol.6 秋のキャンパス編【早稲田文化ラボ】 ・大学史資料センター秋季企画展「早稲田で学ぶ 一時代のなかの学生と学問一」 ・2020年はオンラインで開催！「多和田葉子・高瀬アキ パフォーマンス&ワークショップ」 ・早稲田大学のミュージアムの再開について ・10月15日（木）開館 本庄早稲田の杜ミュージアム ・早稲田文化募金のご案内 ・早稲田文化 Facebook、Twitter、Instagram、Youtube のご紹介
111	10月16日	・特設 WEB サイト「早稲田文化ラボ」公開中 ・早稲田から応援しよう！おにぎりアクション ・2020年はオンラインで開催！「多和田葉子・高瀬アキ パフォーマンス&ワークショップ」 ・早稲田大学歴史館 テーマ展示「今に息づく早稲田建築」 ・早稲田大学歴史館 企画展「大隈重信とチベット・モンゴル」 ・大学史資料センター秋季企画展「早稲田で学ぶ 一時代のなかの学生と学問一」 ・早稲田スポーツミュージアム 新規資料展示 ・本学第5のミュージアム「本庄早稲田の杜ミュージアム」が開館 ・WASEDA University 2021 CALENDAR 発売 ・早稲田大学のミュージアムの再開について ・早稲田文化募金のご案内 ・早稲田文化 Facebook、Twitter、Instagram、Youtube のご紹介
112	11月13日	・特設 WEB サイト「早稲田文化ラボ」公開中 ・2020年はオンラインで開催！「多和田葉子・高瀬アキ パフォーマンス&ワークショップ」 ・早稲田大学歴史館 テーマ展示「今に息づく早稲田建築」 ・早稲田大学歴史館 企画展「大隈重信とチベット・モンゴル」 ・早稲田スポーツミュージアム 新規資料展示 ・早稲田大学のミュージアム 開館時間の変更について ・本学第5のミュージアム「本庄早稲田の杜ミュージアム」が開館 ・WASEDA University 2021 CALENDAR 発売 ・早稲田文化募金のご案内 ・早稲田文化 Facebook、Twitter、Instagram、Youtube のご紹介
113	12月11日	・特設 WEB サイト「早稲田文化ラボ」公開中 ・早稲田大学歴史館 テーマ展示「今に息づく早稲田建築」 ・早稲田スポーツミュージアム 東京六大学野球秋季リーグ 優勝記念特別展示 ・早稲田スポーツミュージアム 体育各部セレクション第5期展示 ・早稲田大学体育各部共通ロゴ人気投票を実施中 ・早稲田大学歴史館に「WABIAN-RV」登場しました！ ・WASEDA University 2021 CALENDAR 発売 ・早稲田文化募金のご案内 ・早稲田文化 Facebook、Twitter、Instagram、YouTube のご紹介

2020年度 文化広報

発行号数	発行日	主 な 記 事
114	12月25日	・特設 WEB サイト「早稲田文化ラボ」公開中 ・早稲田大学歴史館 テーマ展示「今に息づく早稲田建築」 ・早稲田大学歴史館 企画展「墨伝う思い一書を通して知る文人 坪内逍遙」 ・早稲田スポーツミュージアム 東京六大学野球秋季リーグ 優勝記念特別展示 ・早稲田スポーツミュージアム 体育各部セレクション第5期展示 ・開館2か月で来館者5,000人を突破！本庄早稲田の杜ミュージアム ・【年末年始 休館のお知らせ】早稲田大学歴史館・早稲田スポーツミュージアム ・WASEDA University 2021 CALENDAR 発売 ・早稲田文化募金のご案内 ・早稲田文化 Facebook、Twitter、Instagram、YouTube のご紹介
115	2021年1月21日	・《NEW》特設 WEB サイト「早稲田文化ラボ」公開中 ・早稲田大学歴史館 テーマ展示「今に息づく早稲田建築」 ・早稲田大学歴史館 企画展「墨伝う思い一書を通して知る文人 坪内逍遙」 ・早稲田スポーツミュージアム 東京六大学野球秋季リーグ 優勝記念特別展示 ・早稲田スポーツミュージアム 体育各部セレクション第5期展示 ・《NEW》本庄早稲田の杜ミュージアム 世界をつなぐやきもの ・《NEW》入試期間中もオープン早稲田大学歴史館・早稲田スポーツミュージアム ・WASEDA University 2021 CALENDAR 発売 ・早稲田文化募金のご案内 ・早稲田文化 Facebook、Twitter、Instagram、YouTube のご紹介
116	2021年2月17日	・《NEW》特設 WEB サイト「早稲田文化ラボ」公開中 ・早稲田大学歴史館 テーマ展示「今に息づく早稲田建築」 ・《まもなく終了》早稲田大学歴史館 企画展「墨伝う思い一書を通して知る文人 坪内逍遙」 ・早稲田スポーツミュージアム 東京六大学野球秋季リーグ 優勝記念特別展示 ・《まもなく終了》早稲田スポーツミュージアム 体育各部セレクション第5期展示 ・本庄早稲田の杜ミュージアム 世界をつなぐやきもの ・入試期間中もオープン早稲田大学歴史館・早稲田スポーツミュージアム ・《まもなく終了》WASEDA University 2021 CALENDAR 発売 ・早稲田文化募金のご案内 ・早稲田文化 Facebook、Twitter、Instagram、YouTube のご紹介
117	2021年3月17日	・《NEW》特設 WEB サイト「早稲田文化ラボ」公開中 ・《NEW》早稲田大学歴史館 企画展「学生たちのいる風景——写真の中の早稲田 1882～2021」 ・早稲田大学歴史館 テーマ展示「今に息づく早稲田建築」 ・《NEW》早稲田スポーツミュージアム 体育各部セレクション第6期展示 ・《まもなく終了》早稲田スポーツミュージアム 東京六大学野球秋季リーグ 優勝記念特別展示 ・本庄早稲田の杜ミュージアム 世界をつなぐやきもの ・早稲田文化募金のご案内 ・早稲田文化 Facebook、Twitter、Instagram、YouTube のご紹介

3. 新聞・雑誌・テレビで取り上げられた主なもの

掲載日・掲載号	媒 体	記事題名	取扱箇所
3月5日	「演劇界」4月号	かぶさの至宝 五代目・六代目中村歌右衛門使用の鏡台	演劇博物館
5月5日	「高田馬場経済新聞」	Zoomの背景に大隈講堂など「キャンパスに通いたい気持ち」に応えるため早大が無料提供	文化企画課
5月22日	「高田馬場経済新聞」	早大が「早稲田文化」の動画配信 「学生が築き上げた文化を全ての人に」	文化企画課
6月4日	「さくらたび」	とでんさんぽ。	演劇博物館
6月17日	NHK BS プレミアム「英雄たちの選択」	名優誕生！九代目市川團十郎 新時代に挑む	演劇博物館
6月19日	WEB版「美術手帖」	新型コロナによる公演中止を後世に伝える。早稲田大学坪内博士記念演劇博物館が資料提供を呼びかけ	演劇博物館
6月23日	「高田馬場経済新聞」	早大「早稲田文化芸術週間」が新型コロナで中止に 特設サイトを開設へ	文化企画課
6月24日	「高田馬場経済新聞」	コロナ禍で公演中止の演劇を記録し後世へ 早大演劇博物館が資料提供呼び掛け	演劇博物館
6月24日	「毎日新聞夕刊」	業界の“今” 記憶し記録を 〈教授・岡室美奈子の私の体はテレビでできている〉	演劇博物館
6月24日	「中日新聞WEB」	〈大波小波〉コロナ禍の影での実り	演劇博物館
6月25日	「朝日新聞夕刊」	早大演劇博物館、「失われた公演」収集	演劇博物館
6月25日	「朝日新聞デジタル」	早大演劇博物館、「失われた公演」収集	演劇博物館
6月26日	JCOM 新宿「つながるNews」	早大演劇博物館、新型コロナウィルス対応にともなう中止・延期公演の資料提供のお願い	演劇博物館
7月1日	「BRUTUS」7月17日号	東京0円の正解	演劇博物館
7月1日	「喜劇悲劇」追悼＝別役実 幻の原稿づくし	コロナ禍における『街と飛行船』－別役実と不条理 岡室美奈子	演劇博物館
7月1日	「喜劇悲劇」追悼＝別役実	『おや、賢治さん、どちらへ うん、ちよっと、そこまで』に寄せて 別役実の宮沢賢治への旅 後藤隆基	演劇博物館
7月3日	「東京ミュージアム散歩」	「エンバク」の名前で愛されるアジアで唯一の演劇専門の博物館 「全世界は劇場なり」を体現する驚異のアーカイブ	演劇博物館
7月11日	「読売新聞夕刊」	チラシが語るコロナ 身の回りの品歴史資料に 博物館・大学が収集	演劇博物館
8月5日	「キネマ旬報」	InsideOut 一映像文化とLGBTQ+	演劇博物館
8月5日	「演劇界」8・9月号	かぶさの至宝 豊原国周画「千歳座初始之図」 児玉竜一	演劇博物館
8月5日	「演劇界」8・9月号	五～七月 劇界の動向 児玉竜一	演劇博物館
8月20日	「課題解決のための専門図書館ガイドブック」	演劇学・映像学の教育・研究拠点	演劇博物館
9月1日	「青洲」	今井兼次設計「演劇博物館」	演劇博物館
9月5日	「演劇界」10月号	かぶさの至宝 初代中村吉右衛門着用『那智祈誓文覚』遠藤武者盛遠の衣裳 児玉竜一	演劇博物館
9月5日	「演劇界」10月号	七～八月 劇界の動向 児玉竜一	演劇博物館
9月5日	「演劇界」10月号	家で楽しむ歌舞伎 この一冊「演劇出版社30年」 児玉竜一	演劇博物館
9月5日	「朝日新聞」	坪内逍遙「小説神髓」「人情」描くべし、宣言したが 好書好日	演劇博物館
9月7日	WEB版「美術手帖」	早稲田大学演劇博物館、コロナで「失われた公演」の資料をオンライン展示へ。「演劇現場へのエール」に	演劇博物館

2020年度 文化広報

掲載日・掲載号	媒体	記事題名	取扱箇所
9月16日	「タイトル文字のデザイン」	現代演劇のダイナミズム パーツの再構築で演劇の多様性を表す	演劇博物館
9月20日	「まち歩き地図 東京さんぽ2021」	早稲田 早大周辺に眠る漱石ゆかりの地をめぐる	演劇博物館
9月25日	「東京のミュージアム100」	早稲田大学坪内博士演劇博物館	演劇博物館
9月25日	「高田馬場経済新聞」	早稲田大学がウェブサイト「早稲田文化ラボ」開設 4つのミュージアムも再開へ	文化企画課
9月30日	ウェブ版「美術手帖」	戦後から2020年までの映画やドラマを対象に。LGBTQ+表象に迫る展覧会が早稲田大学演劇博物館で開催中	演劇博物館
10月2日	ウェブ版「美術手帖」	映画史におけるLGBTQ+表象を紐解く展覧会「Inside/Out」。何が描かれ、何が描かれてこなかったのか？	演劇博物館
10月3日	「東京人」	コロナ渦で中止・延期となった公演を記録し後世へ	演劇博物館
10月5日	「GENXY」	「映画史におけるLGBTQ+」その描かれ方とは？注目の展覧会が開催中	演劇博物館
10月5日	「演劇界」11月号	かぶきの至宝 三代目中村梅玉筆『芦屋道満大内鑑』『葛の葉』の曲書き 児玉竜一	演劇博物館
10月5日	「演劇界」11月号	八〜九月 劇界の動向 児玉竜一	演劇博物館
10月6日	「共同通信」WEB	コロナで中止公演のチラシを公開 早大演劇博物館がオンラインで	演劇博物館
10月6日	「東京新聞Web」(共同通信)	コロナで中止公演のチラシを公開 早大演劇博物館がオンラインで	演劇博物館
10月6日	「日本経済新聞電子版」(共同通信)	コロナで中止公演のチラシを公開 早大演劇博物館がオンラインで	演劇博物館
10月6日	「静岡新聞Web」(共同通信)	コロナで中止公演のチラシを公開 早大演劇博物館がオンラインで	演劇博物館
10月6日	「岩手日報Web」(共同通信)	コロナで中止公演のチラシを公開 早大演劇博物館がオンラインで	演劇博物館
10月6日	「東奥日報Web」(共同通信)	コロナで中止公演のチラシを公開 早大演劇博物館がオンラインで	演劇博物館
10月6日	「中国新聞デジタル」(共同通信)	コロナで中止公演のチラシを公開 早大演劇博物館がオンラインで	演劇博物館
10月6日	「河北新報デジタル」(共同通信)	コロナで中止公演のチラシを公開 早大演劇博物館がオンラインで	演劇博物館
10月6日	「北日本新聞Web」(共同通信)	コロナで中止公演のチラシを公開 早大演劇博物館がオンラインで	演劇博物館
10月6日	「高知新聞Web」(共同通信)	コロナで中止公演のチラシを公開 早大演劇博物館がオンラインで	演劇博物館
10月6日	「中部経済新聞Web」(共同通信)	コロナで中止公演のチラシを公開 早大演劇博物館がオンラインで	演劇博物館
10月6日	「徳島新聞電子版」(共同通信)	コロナで中止公演のチラシを公開 早大演劇博物館がオンラインで	演劇博物館
10月6日	「西日本新聞Web」(共同通信)	コロナで中止公演のチラシを公開 早大演劇博物館がオンラインで	演劇博物館
10月6日	「京都新聞デジタル」(共同通信)	コロナで中止公演のチラシを公開 早大演劇博物館がオンラインで	演劇博物館
10月6日	「佐賀新聞LIVE」(共同通信)	コロナで中止公演のチラシを公開 早大演劇博物館がオンラインで	演劇博物館
10月6日	「沖縄タイムス+プラス」(共同通信)	コロナで中止公演のチラシを公開 早大演劇博物館がオンラインで	演劇博物館
10月6日	「千葉日報オンライン」(共同通信)	コロナで中止公演のチラシを公開 早大演劇博物館がオンラインで	演劇博物館
10月6日	「中日新聞Web」(共同通信)	コロナで中止公演のチラシを公開 早大演劇博物館がオンラインで	演劇博物館
10月7日	ウェブ版「美術手帖」	早稲田大学演劇博物館がオンライン展示「失われた公演—コロナ禍と演劇の記録/記憶」を公開	演劇博物館
10月7日	「NHKニュースWEB」	新型コロナで延期や中止になった公演のチラシなどネットで公開	演劇博物館
10月7日	「首都圏 NEWS WEB」	中止の演劇チラシなどネットに	演劇博物館
10月7日	NHK「シブ5時」	新型コロナで延期や中止になった公演のチラシなどネットで公開	演劇博物館
10月7日	NHK「首都圏ネットワーク」	ちかさとコレクション！中止・延期の公演 資料をオンラインで	演劇博物館
10月7日	「CINRA.NET」	早稲田大学演劇博物館、コロナ禍で「失われた公演」の資料をオンライン展示	演劇博物館
10月8日	TBSラジオ「荻上チキ・Session」	橋本麻里さんおすすめ美術「早稲田大学演劇博物館 オンライン展示 失われた公演—コロナ禍と演劇の記録/記憶」	演劇博物館
10月8日	「高田馬場経済新聞」	コロナ禍で「失われた公演」チラシなど 早大演劇博物館が収集、オンライン展示へ	演劇博物館
10月10日	「zakzak」byタカフジ	【大人のエンタメ】中止公演のチラシを集め演劇博物館がネットで公開	演劇博物館
10月10日	いどり11月号(富士フィルム会報)	早稲田大学坪内博士演劇博物館	演劇博物館
10月12日	小説「野性時代」11月号	蛸谷めぐみ×児玉竜一『化け者心中』刊行記念弟対談	演劇博物館
10月13日	J:COM新宿「つながるNews」	オンラインで展示する「失われた公演、コロナ禍と演劇の記録、記憶」を開催 来年の春ごろには現物展示による企画展の開催も検討中	演劇博物館
10月13日	「産経ニュースWEB」	中止公演のチラシを集め公開 演劇博物館がオンラインで	演劇博物館
10月15日	「日経速報ニュースアーカイブ」	埼玉の本土早稲田の杜ミュージアム開館 埴輪や縄文土器など展示	文化企画課
10月15日	「Pen」2020年11/1号	来秋オープンする、村上ワールドの殿堂へ。	国際文学館
10月16日	「日本経済新聞」	本庄早稲田の杜ミュージアム開館、埴輪や縄文土器展示。	文化企画課
10月16日	「毎日新聞」	本庄早稲田の杜ミュージアム：「本庄早稲田の杜」開館 市と大学、共同運営の博物館 / 埼玉	文化企画課
10月17日	「東京新聞」	消えた公演、空白にせず 早大演劇博物館 思い伝えるオンライン資料展示	演劇博物館
10月17日	「東京新聞 TOKYO Web」	消えた公演、空白にせず 早大演劇博物館 思い伝えるオンライン資料展示	演劇博物館
10月18日	「読売新聞」	笑顔のはいわも 360点展示 本庄市と早大連携 考古学の博物館開館＝埼玉	文化企画課
10月19日	「高田馬場経済新聞」	サイレント映画上映会「エンパクション」、コロナ対策施工講堂で	演劇博物館
10月21日	「朝日新聞」	「失われた公演」、コロナ禍の記憶 早大演劇博物館、オンライン展示	演劇博物館
10月21日	「朝日新聞デジタル」	「失われた公演」、コロナ禍の記憶 早大演劇博物館、オンライン展示	演劇博物館
10月23日	「日本経済新聞電子版」	演劇博物館、「失われた公演」チラシをネット公開	演劇博物館
10月24日	「クロワッサン」No.1032	お茶の時間140 文楽の楽しみ 渡部保さん×大島真寿美さん	演劇博物館
11月1日	「ブレーン」12月号	「InsideOut —映像文化とLGBTQ+」図録	演劇博物館
11月5日	「東方」	早稲田大学演劇博物館 特別展「競演！『三国志』の風雲児たち—日本・中国・台湾の華麗なる舞台」	演劇博物館
11月5日	「演劇界」12月号	かぶきの至宝 初代歌川国貞画『仮名手本忠臣蔵』錦絵下絵 児玉竜一	演劇博物館
11月5日	「演劇界」12月号	九〜十月 劇界の動向 児玉竜一	演劇博物館
11月7日	「信濃毎日新聞夕刊」(共同通信)	映画とドラマとLGBTと(上) 早大演劇博物館企画展に見る戦後の歩み 同性愛 規制の中の作品にも	演劇博物館
11月14日	「信濃毎日新聞夕刊」(共同通信)	映画とドラマとLGBTと(中)「ゲイブーム」で作品増加 「商品化」距離置く映画も	演劇博物館
11月15日	「早稲田学報」12月号	InsideOut —映像文化とLGBTQ+	演劇博物館
11月15日	ウェブ版美術手帖	「村上春樹ライブラリー」が早稲田大学内に21年秋に開館。建築設計は隈研吾	国際文学館
11月16日	「北海道新聞夕刊」(共同通信)	映画とドラマとLGBTと(上) 暗示から集客目的へ	演劇博物館
11月16日	WEBマガジン「シアターアーツ」	【コロナと演劇】中止・延期になった公演の記録 早稲田大学演劇博物館「失われた公演—コロナ禍と演劇の記録/記憶」後継展を企画 児玉竜一	演劇博物館
11月17日	「茨城新聞」(共同通信)	映画とドラマとLGBTと(上) 縛りの中に隠れた意図 客集めにレズビアン描写	演劇博物館
11月18日	TBS「アフター6ジャンクション」	「ピノド・ザ・カルチャー」クアを視点で振り返る戦後日本映画史 特集 by 久保豊	演劇博物館
11月18日	TBSラジオHP	小津や木下恵介も描いていた！？クアを視点で振り返る戦後日本映画史	演劇博物館
11月18日	TBSラジオ「アトロクアーカイブ」	2020.11.18 水曜日 #0687 小津安二郎や木下恵介も描いていた？クアを視点で振り返る戦後日本映画史	演劇博物館

2020年度 文化広報

掲載日・掲載号	媒体	記事題名	取扱箇所
11月18日	「東京新聞「TOKYO Web」	映像世界から多様な性のあり方「LGBTQ+」を考える企画展 早稲田大演劇博物館で	演劇博物館
11月18日	「東京新聞夕刊」	映像世界から多様な性のあり方「LGBTQ+」を考える企画展 早稲田大演劇博物館で	演劇博物館
11月19日	AdverTimes (アドタイ) by 宣伝会議	カバーを外すと印象が変わる「Inside/Out ―映像文化とLGBTQ+」図録のブックデザイン	演劇博物館
11月19日	TOKYOMX「バラいるダンディ」	東京あれこれ	演劇博物館
11月21日	「信濃毎日新聞夕刊」(共同通信)	映画とドラマとLGBTと(下) 同性愛映像作品「当事者が見る意味大きい」 多様な性自認・指向の表裏に期待	演劇博物館
11月22日	「下野新聞」(共同通信)	映画とドラマとLGBTと(上) 規制の中、推測できる役も レズビアン描写、客集めか	演劇博物館
11月22日	「めでたしめずらし 端獣 珍獣」	人魚図	演劇博物館
11月24日	「北海道新聞夕刊」(共同通信)	映画とドラマとLGBTと(中) 生活者として同性愛描く	演劇博物館
11月27日	「一般社団法人新宿観光振興協会」WEB	競演!『三国志』の風雲児たち 一日本・中国・台湾の華麗なる舞台	演劇博物館
11月28日	「埼玉新聞」(共同通信)	映画とドラマとLGBTと(上) 規制の中、推測できる役も 集客にレズ描写か	演劇博物館
11月29日	「下野新聞」(共同通信)	映画とドラマとLGBTと(中)「ゲイブーム」で作品増加「商品化」距離置く映画も	演劇博物館
11月30日	「北海道新聞夕刊」(共同通信)	映画とドラマとLGBTと(下) より多様な表裏に期待	演劇博物館
12月1日	「NIKKEI STYLE」	展覧会が問う「性」 ジェンダー歴史、LGBTQ描く映像 エンタメ!	演劇博物館
12月1日	「日本経済新聞夕刊」	展覧会が問う「性」 ジェンダー歴史、LGBTQ描く映像 エンタメ!	演劇博物館
12月1日	「茨城新聞」(共同通信)	映画とドラマとLGBTと(中)「ゲイブーム」で「商品化」 多様な関係描く作品群も	演劇博物館
12月1日	デジタルアーカイブ・ベシックス4 アートシーンを支える	演劇博物館 デジタル・アーカイブ	演劇博物館
12月4日	「ハフポスト日本版」	LGBTQ、日本でどう描かれてきたか。企画展が開催中、「ゲイ男性を描く作品が多い」などの特徴も	演劇博物館
12月4日	「朝日新聞」	性的少数者 映像でたどる 早稲田大学演劇博物館で企画展 戦後～現代の作品 描かれ方を再考	演劇博物館
12月5日	「埼玉新聞」(共同通信)	映画とドラマとLGBTと(中)「ゲイブーム」で作品増加「商品化」距離置く映画も	演劇博物館
12月5日	NHKラジオ「マイあさ!」	▽週末文化の歩き方<美術館で会いましょう>橋本麻里	演劇博物館
12月5日	「演劇界」1月号	かぶきの至宝 六代目尾上菊五郎『京鹿子娘道成寺』大羽子板 児玉竜一	演劇博物館
12月5日	「演劇界」1月号	劇評「俊寛と六助」 児玉竜一	演劇博物館
12月5日	「演劇界」1月号	十一月十一月 劇界の動向 児玉竜一	演劇博物館
12月6日	「下野新聞」(共同通信)	映画とドラマとLGBTと(下) 作品増、社会認識に意義 より多様な表裏に期待	演劇博物館
12月6日	「婦人画報」WEB	注目の染織・工芸、書画の展覧会5選	演劇博物館
12月12日	「埼玉新聞」(共同通信)	映画とドラマとLGBTと(下) 作品増 社会認識に意義 より多様な表裏に期待	演劇博物館
12月12日	TOKYO MX「お江戸に恋して」	『もっと 進め!江戸小町』文楽・歌舞伎の世界の忠臣蔵 児玉副館長出演	演劇博物館
12月14日	「熊本日日新聞」(共同通信)	映画とドラマとLGBTと(上) 戦後、性描写に規制 隠された意図 工夫して表現	演劇博物館
12月15日	「茨城新聞」(共同通信)	映画とドラマとLGBTと(下) 作品増も「商品化」懸念 より多様な「表象」に期待	演劇博物館
12月17日	「インターネットミュージアム」	Inside_Out ―映像文化とLGBTQ+	演劇博物館
12月19日	「ぴあエンタメ情報」	水先案内人岡田 秀則がセレクト いま、最高の一本 Inside-Out ―映像文化とLGBTQ+	演劇博物館
12月21日	「熊本日日新聞」(共同通信)	映画とドラマとLGBTと(中) ゲイブーム 同性愛 明確に描く作品増	演劇博物館
12月23日	映画「虹色の朝が来るまで」公式WEB	<お知らせ>早稲田大学演劇博物館にてトークショー開催	演劇博物館
12月28日	「熊本日日新聞」(共同通信)	映画とドラマとLGBTと(下) 商品化でイメージ固定 より多様な表裏に期待	演劇博物館
12月28日	All About	【2021年注目!】東京にオープンする新スポット6選	国際文学館
2021年1月1日	「トランヴェール」2021-1月号	東京スキマTrip 早稲田文化の薫る街へ	演劇博物館
2021年1月5日	「演劇界」2月号	かぶきの至宝 田中良画 舞台装置図『保名』 児玉竜一	演劇博物館
2021年1月5日	「演劇界」2月号	2020年の歌舞伎界 一年の動向 児玉竜一	演劇博物館
2021年1月5日	「演劇界」2月号	映画時代を辿る「越境する開拓者」 児玉竜一	演劇博物館
2021年1月5日	「演劇界」2月号	家で楽しむ歌舞伎 この一冊「上方落語の戦後史」 児玉竜一	演劇博物館
2021年1月11日	「Chinese Independent Film Archive」	Inside/Out: LGBTQ+ Representation in Film and Television - Yutaka Kubo	演劇博物館
2021年1月13日	TECTURE MAG	隈研吾設計「村上春樹ライブラリー」が早稲田大学キャンパス内に今秋開館	国際文学館
2021年1月14日	「カレントアウェアネス・ポータル」	E2343- <失われた公演>を記録する: コロナ禍とエンパクの取組	演劇博物館
2021年1月23日	「日本経済新聞電子版」	早慶でデジタルミュージアム始動 コロナ禍に挑戦	演劇博物館
2021年1月23日	「日本経済新聞」	早慶でデジタルミュージアム始動 コロナ禍に挑戦	演劇博物館
2021年1月25日	「トーキョーデザイン探訪」	早稲田大学坪内博士演劇博物館	演劇博物館
2021年1月29日	ジェイコム東京「スクロールニュース」	【早稲田大学演劇博物館 オンライン展示】『失われた公演-コロナ禍と演劇の記録/記憶』	演劇博物館
2021年2月3日	「東京新聞夕刊」	デジタルアーカイブ化 有料配信目指す 舞台映像1300本集積 コロナ禍 活路探る	演劇博物館
2021年2月3日	「東京新聞 TOKYO Web」	過去の名舞台から最新ミュージカルまで…デジタルアーカイブ化1,300本 演劇界を有料配信で支援へ	演劇博物館
2021年2月5日	「演劇界」3月号	かぶきの至宝 東京座開場の口上書と『#国産爺合戦』の絵看板屏風 児玉竜一	演劇博物館
2021年2月5日	「演劇界」3月号	十一月十一月 劇界の動向 児玉竜一	演劇博物館
2021年2月5日	「東奥日報」「秋田魁新報」「京都新聞」	早稲田スポーツミュージアム	文化企画課
2021年2月13日	「信濃毎日新聞」	早稲田スポーツミュージアム スポーツ「お宝」拝見	文化企画課
2021年2月22日	「東京新聞夕刊」	日本演劇の枠 ネットに結集 あすサイト開設「劇場外からも舞台感じて」	演劇博物館
2021年3月1日	「墨」2021年3・4月号	展覧会告知「篆刻家・松丸東魚の仕事」	會津博物館
2021年3月5日	「美術新聞」	「松丸東魚の仕事」展、開幕	會津博物館
2021年3月8日	「読売新聞」	「ミュージアムへ行こう」本庄早稲田の杜ミュージアム「笑う埴輪」実は威嚇	文化企画課
2021年3月9日	「茨城新聞」	早稲田スポーツミュージアム	文化企画課
2021年3月12日	CINRA.NET	岡室美奈子に聞く、危機的状況の舞台芸術を再起動するための道標	演劇博物館
2021年3月16日	「早稲田学報」4月号	早稲田大学演劇博物館 2021年新収蔵品展	演劇博物館
2021年3月18日	「毎日新聞」	連載 書の世界「篆刻家・松丸東魚の仕事 巨人の人物像に迫る」	會津博物館
2021年3月23日	J:COM 新宿「つながるNews」	早稲田大学演劇博物館 2021年新収蔵品展	演劇博物館
2021年3月26日	新宿観光振興協会WEB	早稲田大学演劇博物館 2021年新収蔵品展	演劇博物館
2021年3月29日	山下裕二成徳の「オンライン・トークバトル」『新風、2020年のベスト&2021年度はこれだ!』	早稲田大学演劇博物館 オンライン展示「失われた公演-コロナ禍と演劇の記録/記憶」 成合肇氏が2020年度のベスト1展示として発表	演劇博物館
2021年3月29日	ウェブ版美術手帖	日本初の「現代演劇・舞踊・伝統芸能」映像検索サイト「JDTA」が公開、コロナの影響を受ける演劇界に貢献	演劇博物館
2021年3月29日	「高田馬場経済新聞」	早大演劇博物館で「2021年 新収蔵品展」「伝芳流 肉筆上方芝居絵帖」など	演劇博物館

早稲田大学文化資源データベース (<https://archive.waseda.jp/archive/>)

1. 目的

「早稲田大学文化資源データベース」は、坪内博士記念演劇博物館、會津八一記念博物館、大学史資料センターの文化三機関、文化企画課および図書館が所蔵する美術工芸品、書画、文

書、博物資料、古典籍など早稲田大学の貴重な文化資源を広く世界に向けて公開することを目的として、2017年6月から公開している。

2. 主要機能・特徴

文化資源に係る数多くのデータベースをワンストップで横断検索し、資料の画像情報や付属資料詳細などを閲覧することができるほか、絞り込み検索、年表や地図表示など様々なアプローチで資料に到達できる。資料のデータや検索結果ページなどは「クリップ」することができ、その情報はURLとともに

サーバに保存され、「クリップ集」ページでほかのユーザーに公開されることも大きな特徴である。

公開データ数は98万件を超えており、今後は更なる充実を目指し、国内外を問わずユーザーの研究・教育に貢献していくことが目標である。

公開データベース数：91（2020年度末現在）

公開データ数：981,388件（2020年度末現在）

2020年度のアクセス件数：526,359回

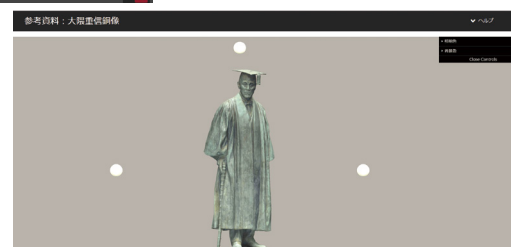
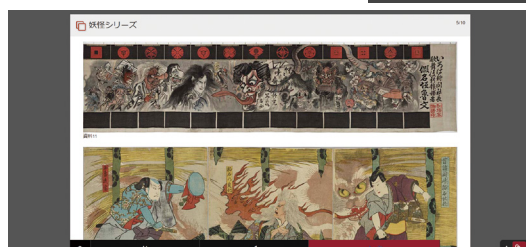


3. バーチャルミュージアム機能 (<https://archive.waseda.jp/archive/vm-top.html>)

文化資源データベースに、バーチャルミュージアム機能を新たに追加し、2020年度から公開を開始した。

これにより、リアルな資料や空間と、3D画像やIIIF等のデジ

タル技術によるバーチャルな資料や空間との横断が可能となり、本学が有する文化資源をより広い層に利用してもらえる環境が整備された。



文化施設

【博物館・資料センターの概要】

名称	坪内博士記念演劇博物館	會津八一記念博物館	大学史資料センター	早稲田大学歴史館	早稲田スポーツミュージアム	考古資料館 (本庄キャンパス)	本庄早稲田の杜ミュージアム (本庄キャンパス)
所在地	5号館	2号館	79号館	1号館	37号館	91号館	93号館
概要	1階： 京マチ子記念特別展示室 日本の映画とテレビ 六世中村歌右衛門記念特別展示室 図書室 2階： 逍遙記念室 企画展示室 3階： 日本の演劇（古代、中世、近世、近代、現代）世界の演劇 ヨーロッパ・アメリカ・アジア 6号館3階 ・貴重書 ・外国語図書閲覧室 ・AVブース	1階： 會津八一コレクション展示室 近代美術展示室 富岡重憲コレクション展示室 2階： グランドギャラリー（常設・企画大展示室）	5階： レファレンスルーム ・歴史的資料 ・高等教育出版物 ・高等教育関係資料	1階： 「久遠の理想」エリア 「進取の精神」エリア 「聳ゆる麓」エリア 企画展示ルーム シアタールーム リサーチルーム カフェ ミュージアムショップ 総合案内	3階： ・「記念会堂」の記憶 ・早稲田スポーツの原点 ・早稲田スポーツクロノロジー ・早稲田スポーツの栄光 ・ダイナミックシアター ・体育各部セレクション ・企画展示エリア ・ウォーク・オブ・フェイム	1階： 考古資料収蔵庫	1階： ・埴輪の世界 ・本庄の歩み ・早稲田大学展示室 ・交流ひろば ・インフォメーション&ショップ
お問い合わせ	Tel：03-5286-1829 E-mail：enpaku@list.waseda.jp	Tel：03-5286-3835 E-mail：aizu@list.waseda.jp	Tel：042-451-1343 E-mail：archives@list.waseda.jp	Tel：03-6380-2891	Tel：03-5286-9079	Tel：0495-24-1081	Tel：0495-71-6878

【文化施設の概要】

名称	大隈記念講堂		小野記念講堂	ワセダギャラリー	125記念室
	大講堂	小講堂			
所在地	21号館1階	21号館B1階	27号館B2階	27号館B1階	26号館10階
利用目的	式典 講演・討論 舞台・上演	講演・討論 舞台・上演	講演・討論 演劇・映画・演奏	小規模な企画展 写真・絵画など	考古学・民族資料 常設展示（會津八一記念博物館収蔵資料）
座席数	1,121席（車椅子用2席）	300席（車椅子用1席）	206席 （最小161席・最大236席）	—	—
主要設備	舞台機構設備 舞台照明設備 映像音響設備 同時通訳設備 ネットワーク設備	舞台機構設備 舞台照明設備 映像音響設備 ネットワーク設備	舞台機構設備 舞台照明設備 映像音響設備 ネットワーク設備	常設展示壁 可動式展示壁 展示台 ディスプレイ	展示ケース 映像音響設備
付属施設	控室 調整室 調光室 映写室 同時通訳ブース	控室 調整室	楽屋・準備室 控室 調整室 投光室	—	—
その他	貸出備品 貸出用揭示物	貸出備品 貸出用揭示物	貸出備品 貸出用揭示物	貸出備品 貸出用揭示物	

※「125記念室」は貸出の対象ではありません。

文化推進部は「大隈記念講堂」「小野記念講堂」「ワセダギャラリー」「125記念室」を管轄している。学内行事での利用を優先しているが、学生団体をはじめ学内団体や学外の機関・団

体にも広く利用されている。また、大隈記念講堂については学外から年間を通じて多くの見学者が訪れている。

1. 大隈記念講堂

大隈重信を偲び、創立45周年の1927（昭和2）年10月15日に竣工された。創立125周年にあたる2007年10月に改修工事を終え、リニューアルオープンした。同年12月に国の重要文化財に登録。全館空調設備が整えられ、情報系設備・機器も完備

した多様な用途に応えうる施設となった。2019年には天井の耐震工事を完了。早稲田大学のシンボルとして、大隈記念講堂は大講堂・小講堂とも学内外の機関・団体から国際会議、演劇、コンサート、映画上映などに利用されている。

2. 小野記念講堂

正門前の歴史的景観ゾーン整備の一環として、2005年に建設された小野梓記念館（27号館）の地下2階にオープンした。2018年の改修工事により、音響効果がさらに向上し、演劇や

コンサート、講演などの多様な用途で活用することが可能となった。「文化活動の成果を発表し、さらに世界の文化と交流を図るためのホール」という理念を具現化した施設を目指す。

3. ワセダギャラリー

2014年秋に小野梓記念館（27号館）地下1階にリニューアルオープン（面積56.35㎡）。写真展、絵画展、書展などに利用

されている（学内箇所・教職員が利用可）。

4. 125記念室

正門前の歴史的景観ゾーンに、「第2世紀の早稲田」を象徴して2006年2月に大隈記念タワー（26号館）10階に設置され

た。主に考古学を中心とした、早稲田大学所蔵の貴重な資料を紹介する展示等を開催している。

文化施設

■施設利用の状況

2020年度 文化施設	使用日数※1	利用件数	利用団体内訳		学外団体	その他※2
			学内箇所	学生団体		
大隈記念講堂大講堂	83日	92件	19件	14件	0件	59件
大隈記念講堂小講堂	76日	80件	21件	13件	0件	47件
小野記念講堂	41日	62件	22件	5件	1件	34件
ワセダギャラリー※3	89日	4件	4件	—	—	—

※1 使用日数には、本番当日だけでなくリハーサル、設営準備、撤収日も含む。

※2 「その他」とは下見、見学、施設点検、定期清掃などが含まれる。

※3 学内箇所のみ利用可能である。

※4 大隈記念講堂・小野記念講堂については、1～4月と8月は公式行事、施設点検、定期清掃などのメンテナンスのため原則外部団体への貸出は行っていない。

■ワセダギャラリー利用一覧

イベント名	開催期間	主催
早稲田スポーツ展 ～仰ぐは同じき理想の光～	3月23日～4月5日	競技スポーツセンター
白バラ ―ヒトラーに抗した学生たち―	10月15日～11月11日	村上公子研究室（人間科学学術院）
オープンカレッジ芸術展（水彩画展、写真展）	11月16日～12月7日	エクステンションセンター
教育学部博物館実習授業成果展示	2021年1月6日～30日	教育学部博物館実習Gクラス



大隈記念講堂
大講堂



大隈記念講堂
小講堂



小野記念講堂



ワセダギャラリー



125記念室

【講堂照明設備技能判定会】

学生が大隈記念講堂・小野記念講堂内に設置されている舞台照明設備を利用するにあたり、各講堂別技能判定会への受講および合格を義務づけている。専門技師が各講堂舞台照明設備を

使いこなせる技術力の判定を行い、一定水準の技量を有すると認められた学生に調整室等関連施設への入室（および舞台照明設備の利用）許可を与えている（年間に複数回を開催）。

■大隈記念講堂

2021年2月24日（水）、3月1日（月）、5日（金）の計3回で、受講者31名

■小野記念講堂

2021年2月25日（木）、26日（金）、3月2日（火）の計3回で、受講者22名



講堂設備技能判定会

2020年度 各種会議

■坪内博士記念演劇博物館

1. 演劇博物館協議委員会

(1) 開催記録

第1回 5月28日（持ち回り審議） 第2回 7月13日 第3回 10月2日（持ち回り審議）
第4回 12月4日（持ち回り審議） 第5回 2021年1月22日 第6回 2021年3月19日

(2) 委員

（2021年3月31日現在）

No.	氏名	所属・役職	選出区分
1	小田島恒志	文学学術院教授	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館規則 第9条一号による委員 （文学学術院選出）
2	小松 弘	文学学術院教授	
3	千野 拓政	文学学術院教授	
4	藤井慎太郎	文学学術院教授	
5	宮沢 章夫	文学学術院教授	
6	山本 浩司	文学学術院教授	
7	平林 宣和	政治経済学術院教授	第9条二号による委員 （第一号以外の学術院・学校選出）
8	大森 信徳	法学学術院准教授	
9	三好 力	教育・総合科学学術院専任講師	
10	沢田 賢	商学学術院教授	
11	渋谷 裕子	理工学術院准教授	
12	卯月 盛夫	社会科学総合学術院教授	
13	福島 勲	人間科学学術院教授	
14	杉山 千鶴	スポーツ科学学術院教授	
15	池島 大策	国際学術院教授	
16	青野 公彦	高等学院教諭	
17	半田 亨	本庄高等学院教諭	
18	保坂 猛	芸術学校准教授	
19	肥田 路美	會津八一記念博物館館長	第9条三号による委員
20	岡室美奈子	演劇博物館館長	第9条四号による委員
21	児玉 竜一	演劇博物館副館長	
22	渡邊 義浩	理事（文化推進担当）	第9条五号による委員
23	首藤佐智子	文化推進部長	第9条六号による委員

■會津八一記念博物館

1. 會津八一記念博物館協議委員会

(1) 開催記録

第1回 5月20日（持ち回り審議） 第2回 11月25日 第3回 2021年2月24日

(2) 委員

（2021年3月31日現在）

No.	氏名	所属・役職	選出区分
1	土屋 礼子	政治経済学術院教授	早稲田大学會津八一記念博物館規則 第10条一号による委員 （学術院選出）
2	岩村健二郎	法学学術院教授	
3	成澤 勝嗣	文学学術院教授	
4	中嶋 隆	教育・総合科学学術院教授	
5	森本 栄晴	商学学術院教授	
6	天野 嘉春	理工学術院教授	
7	小長谷英代	社会科学総合学術院教授	
8	余語 琢磨	人間科学学術院准教授	
9	太田 章	スポーツ科学学術院教授	
10	池島 大策	国際学術院教授	
11	近藤 二郎	文学学術院教授	第10条二号による委員 （館長推薦）
12	川尻 秋生	文学学術院教授	
13	高橋龍三郎	文学学術院教授	
14	益田 朋幸	文学学術院教授	
15	川瀬 由照	文学学術院教授	
16	古谷 誠章	理工学術院教授	
17	平山 廉	国際学術院教授	第10条三号による委員
18	ローリー ゲイ	図書館長	
19	岡室美奈子	演劇博物館館長	
20	大日方純夫	大学史資料センター所長	第10条四号による委員
21	渡邊 義浩	理事（文化推進担当）	

2020年度 各種会議

No.	氏 名	所属・役職	選出区分
22	本間 敬之	教務部長	第10条五号による委員
23	首藤佐智子	文化推進部長	
24	肥田 路美	會津八一記念博物館館長	
25	坂上 桂子	會津八一記念博物館副館長	第10号六号による委員
26	下野 玲子	會津八一記念博物館主任研究員	
27	天神 和久	會津八一記念博物館事務長	第10条八号による委員

■大学史資料センター

1. 大学史資料センター運営委員会

(1) 開催記録

第1回 5月20日（電子記録（メール）による協議） 第2回 11月18日 第3回 2021年1月20日

(2) 委員

（2021年3月31日現在）

No.	氏 名	所属・役職	選出区分
1	渡邊 義浩	理事（文化推進担当）	早稲田大学大学史資料センター規程 第8条一号による委員
2	仲内 英三	政治経済学術院教授	
3	下田 啓	法学学術院教授	第8条二号による委員
4	飯山 知保	文学学術院教授	
5	野口 穂高	教育・総合科学学術院准教授	
6	清水 洋	商学学術院教授	
7	森 達哉	理工学術院教授	
8	稲生 信男	社会科学総合学術院教授	
9	加藤 茂生	人間科学学術院准教授	
10	石井 昌幸	スポーツ科学学術院教授	
11	早瀬 晋三	国際学術院教授	第8条三号による委員
12	井上 文人	校友会常任幹事	
13	沖 清豪	文学学術院教授	第8条四号による委員
14	和仁 かや	法学学術院教授	
15	大日方純夫	大学史資料センター所長	第8条五号による委員
16	本間 敬之	教務部長	
17	ローリー ゲイ	図書館長	
18	肥田 路美	會津八一記念博物館館長	
19	首藤佐智子	文化推進部長	
20	友金 孝夫	総務部長	
21	鈴木 護	大学史資料センター事務長	

2. 早稲田大学百五十年史編纂委員会

(1) 開催記録

第1回 6月24日（持ち回り審議） 第2回 12月2日

(2) 委員

（2021年3月31日現在）

No.	氏 名	所属・役職	選出区分
1	渡邊 義浩	理事（文化推進担当）	早稲田大学百五十年史編纂委員会設置要綱 第4条一号による委員
2	佐藤 宏之	理事（総務担当）	
3	大日方純夫	大学史資料センター所長	第4号二号による委員
4	首藤佐智子	文化推進部長	第4条三号による委員
5	鈴木 宏隆	広報室長	
6	ローリー ゲイ	図書館長	
7	仲内 英三	政治経済学術院教授	第4条四号による委員
8	下田 啓	法学学術院教授	
9	真辺 将之	文学学術院教授	
10	野口 穂高	教育・総合科学学術院教授	
11	横山 将義	商学学術院教授	
12	桐村光太郎	理工学術院教授	
13	上沼 正明	社会科学総合学術院教授	
14	里見 龍樹	人間科学学術院准教授	
15	石井 昌幸	スポーツ科学学術院教授	第4条五号による委員
16	宮崎 里司	国際学術院教授	
17	川口 浩	政治経済学術院	
18	沖 清豪	文学学術院教授	
19	岡本 公一	国際学術院教授	

2020年度 各種会議

■国際文学館

1. 国際文学館管理委員会

(1) 開催記録

第1回 5月15日（持ち回り審議） 第2回 10月12日 第3回 12月14日
第4回 2021年3月18日

(2) 委員

（2021年3月31日現在）

No.	氏名	所属・役職	選出区分
1	宗像 和重	文学学術院教授	国際文学館規則 第13条第一号による委員
2	松永 美穂	文学学術院教授	
3	辛島ディヴィッド	国際学術院准教授	
4	ローリー ゲイ	図書館長	第13条第三号による委員
5	十重田裕一	国際文学館館長	第13条第四号による委員
6	榊原 理智	国際文学館副館長	
7	首藤佐智子	文化推進部長	第13条第五号による委員
8	本間知佐子	国際文学館事務長	第13条第六号による委員

■文化推進部【文化企画課所管】

1. 早稲田スポーツミュージアム運営協議会

(1) 開催記録

第1回 2021年3月10日

(2) 委員

（2021年3月31日現在）

No.	氏名	所属・役職
1	渡邊 義浩	理事（文化推進担当）
2	恩蔵 直人	理事（スポーツ振興担当）
3	首藤佐智子	文化推進部長
4	鈴木 宏隆	広報室長
5	石井 昌幸	競技スポーツセンター所長
6	大日方純夫	大学史資料センター所長
7	金子 尚吾	文化推進部事務部長

2. 出版企画委員会

(1) 開催記録

第1回 10月5日 第2回 2021年3月29日

(2) 委員

委員会は、出版企画委員会設置要綱の規定による本部役職委員4名、各学術院長推薦委員10名、文化推進を担当する理事推薦委員1名の合計15名で構成されている。

嘱任期間は2020年5月1日～2022年4月30日である。

なお、出版審査内容は非公開のため、委員名を省略する。

3. 歴史館運営協議会

(1) 開催記録

第1回 2021年3月10日

(2) 委員

（2021年3月31日現在）

No.	氏名	所属・役職
1	渡邊 義浩	理事（文化推進担当）
2	首藤佐智子	文化推進部長
3	鈴木 宏隆	広報室長
4	大日方純夫	文化推進部副部長・大学史資料センター所長
5	肥田 路美	文化推進部副部長・會津八一記念博物館館長
6	岡室美奈子	文化推進部副部長・演劇博物館館長
7	金子 尚吾	文化推進部事務部長

2020年度 人 事

【役職者人事】

文化推進部・坪内博士記念演劇博物館・會津八一記念博物館・大学史資料センター・文化企画課

2021年4月1日現在		
文化推進担当理事		渡邊 義浩
文化推進部	部長	首藤佐智子（6月1日付で嘱任）
	事務部長	金子 尚吾（7月1日付で総長室より転入）
坪内博士記念演劇博物館	館長 文化推進部副部長	岡室美奈子（副部長を兼務）
	副館長	児玉 竜一
	事務長	野原佳名子
會津八一記念博物館	館長 文化推進部副部長	肥田 路美（副部長を兼務）
	副館長	坂上 桂子
	事務長	天神 和久（7月1日付で高等研究所より転入）
大学史資料センター	所長	渡邊 義浩（文化推進担当理事を兼務）
	事務長	鈴木 護
国際文学館	館長	十重田裕一
	事務長	本間知佐子
文化企画課	課長	内田 貴

退 任	
文化推進部 事務部長	本田 博（5月31日付で定年退職）
大学史資料センター 所長（文化推進部 副部長）	大日方純夫（2021年3月31日付で定年退職）
會津八一記念博物館 事務長	今村 昭一（7月1日付で図書館へ転出）

【教員人事】

坪内博士記念演劇博物館

日 付	異動・嘱任	氏 名	役職・身分	旧所属・役職
4月1日	嘱任	原田 真澄	助教	
4月1日	嘱任	伊藤 愉	助手	
4月1日	嘱任（資格変更）	柴田康太郎	次席研究員	研究助手
9月30日	退任	久保 豊	助教	
2021年3月31日	退任	伊藤 愉	助手	
2021年3月31日	退任	李 思漢	助手	
2021年4月1日	嘱任	石淵理恵子	助教	
2021年4月1日	嘱任	川崎 佳哉	助教	
2021年4月1日	嘱任	金 潤貞	助手	

會津八一記念博物館

日 付	異動・嘱任	氏 名	役職・身分	旧所属・役職
4月1日	嘱任	山田麻里亜	助手	
2021年3月31日	退任	石井 友菜	助手	
2021年4月1日	嘱任	谷川 遼	助手	

大学史資料センター

日 付	異動・嘱任	氏 名	役職・身分	旧所属・役職
2021年4月1日	任期延長	廣木 尚	講師（任期付）	

国際文学館

日 付	異動・嘱任	氏 名	役職・身分	旧所属・役職
2021年4月1日	資格変更	栗原 悠	助教	助手
2021年4月1日	資格変更	権 慧	助教	助手
2021年4月1日	嘱任	シックス エリック ジェームズ	助手	

※文化企画課：文化推進学生アドバイザー 14名（第8期・活動期間 2021年1月～12月）

在学生の文化ニーズを集約し、主体的に「早稲田文化」を創造・発信することを目的として2014年3月に発足。2021年1月に第8期目がスタートし、在学生14名がボランティアとして文化推進部主催イベントの企画・立案を行っている。

2020年度 統計

■各機関の主管施設の利用状況

主管箇所	演劇博物館	會津八一記念博物館		大学史資料センター	文化企画課		
展示室名	演劇博物館 (5号館)	會津八一記念博 物館(2号館)	125記念室 (26号館10階)	早稲田大学歴史館 (1号館1階)	早稲田大学歴史館 (1号館1階)	早稲田スポーツミュー ジウム(37号館3階)	本庄早稲田の杜ミュー ジウム(93号館1階)
開館日数	131	106	106	—	126	126	138
入館者数	7,936	3,713	747	—	8,452	2,298	9,771
展覧会企画件数※1	2	5	1	1	2	6	2

■各機関文化事業および教育活動の実績総数

主管箇所	演劇博物館	會津八一記念博物館	大学史資料センター	国際文学館	文化企画課
催し物件数	14	0	—	0	6
催し物来場者数※2	1,430	0	—	0	4,426
各箇所設置および 協力授業コマ数※3	5	15	4	0	0
各箇所設置および 協力授業登録者人数※3	157	151	710	0	0
各箇所主催および 協力課外活動実施数※4	2	4	—	0	0
各箇所主催および協力 課外活動参加人数※4	0	49	—	0	0

※1 各展覧会の内容・来場者数等は、展覧会・催し物の該当ページをご覧ください。

※2 催し物は学内外での公演・講演会・(研究)公開講座とする。

※3 各箇所設置および協力授業のコマ数は学内設置の授業のコマ数とし、登録者数は設置科目の人数のほか、学部・大学院授業への協力の授業の受講生数を示す。

※4 各箇所主催および協力課外活動実施数は、見学授業・修学旅行・学校見学会など課外授業見学者の受け入れの件数のほか、学内外の生涯学習への協力(エクステンションや市民講座)、共催や地域交流事業の件数とし、参加人数は、上記定義に関連する事業に参加した人数とする。

■各機関学内外出品・協力件数

主管箇所	演劇博物館	會津八一博物館	大学史資料センター	文化企画課
各主管箇所出品・ 展示協力件数	9	9	1	1

■図書資料・AV資料の受け入れ状況

主管箇所	和書	アジア圏図書 (中国語・韓国語)	洋書	貴重書	AV資料	受け入れ図書 総計	寄贈資料点数 (図書以外)※6
演劇博物館※5	783	177	204	38	65	1,267	70
會津八一博物館	464	19	1	0	0	484	27
大学史資料センター	717	0	0	10	50	777	7,156
国際文学館	—	—	—	—	—	7,909	5

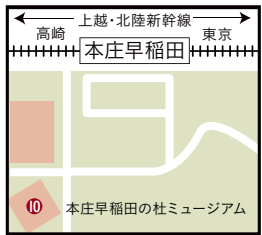
※5 演劇博物館は、演劇・映像関係図書収蔵の図書館を併設し、和書・アジア圏図書・洋書・貴重書・AV資料などを閲覧できる。

※6 寄贈資料点数は、図書以外の寄贈資料の点数の総計である。なお、演劇博物館の点数については、件数を示している。

文化施設マップ・連絡先一覧

<https://www.waseda.jp/culture/>

早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター



東伏見キャンパス



大隈記念講堂



坪内博士記念演劇博物館



會津八一記念博物館



早稲田大学歴史館



早稲田スポーツミュージアム



125記念室(大隈記念タワー)



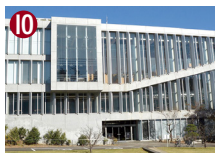
小野記念講堂



ワセダギャラリー



大学史資料センター



本庄早稲田の杜ミュージアム



早稲田大学 文化推進部

坪内博士記念演劇博物館

Tel: 03-5286-1829 Fax: 03-5273-4398
<https://www.waseda.jp/enpaku/> E-mail: enpaku@list.waseda.jp

會津八一記念博物館

Tel: 03-5286-3835 Fax: 03-5286-1812
<https://www.waseda.jp/culture/aizu-museum/> E-mail: aizu@list.waseda.jp

早稲田大学歴史館

Tel: 03-6380-2891 Fax: 03-6380-2894
<https://www.waseda.jp/culture/about/facilities/rekishikan/>

早稲田スポーツミュージアム

Tel: 03-5286-9079
<https://www.waseda.jp/culture/about/facilities/spomu/>

本庄早稲田の杜ミュージアム

Tel: 0495-71-6878
<https://www.hwmm.jp/>

国際文学館

Tel: 03-6265-9720 Fax: 03-5272-4784
<https://www.waseda.jp/culture/about/facilities/wihl/> E-mail: wihl@list.waseda.jp

大学史資料センター

Tel: 042-451-1343 Fax: 042-451-1347
<https://www.waseda.jp/culture/archives/> E-mail: archives@list.waseda.jp

文化企画課

Tel: 03-5272-4783 Fax: 03-5272-4784
<https://www.waseda.jp/culture/> E-mail: art-culture@list.waseda.jp



早稲田大学 文化推進部年報 2020年度版

2021年12月1日発行 発行人/首藤 佐智子 企画・編集・発行/早稲田大学文化推進部